

注3 **大学番号：私立240**

[令和2年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

届出

大阪人間科学大学 保健医療学部

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 薫英学園

令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務課

職名・氏名 カチョウ 課長 ニシダ 西田 ヨシヒロ 佳弘

電話番号 06-6381-3000

（夜間） 06-6381-3000

F A X 06-6381-3502

e-mail ohs-kyomu@kun.ohs.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健医療学部

<理学療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	23
7. その他全般的事項	24

<作業療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	27
2. 授業科目の概要	31
3. 施設・設備の整備状況、経費	36
4. 既設大学等の状況	37
5. 教員組織の状況	38
6. 附帯事項等に対する履行状況等	48
7. その他全般的事項	49

<言語聴覚学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	52
2. 授業科目の概要	56
3. 施設・設備の整備状況、経費	61
4. 既設大学等の状況	62
5. 教員組織の状況	63
6. 附帯事項等に対する履行状況等	73
7. その他全般的事項	74

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 薫英学園

(2) 大学名

大阪人間科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒566-8501
大阪府摂津市正雀1丁目4番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ ミチオ) 小川 道雄 (昭和60年10月)		
学長	(タナカ ヤスカズ) 田中 保和 (平成29年4月)		
学部長	(ヤマギシ マサカズ) 山岸 正和 (令和2年4月)		
学科長等	(ヤマノ カオル) 山野 薫 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 理学療法学科 学士 (理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	60人	— 年次人	240人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	60 (—) [—]	— (—) [—]	1.06倍	一倍								
志願者数	— (—) [—]	280 (—) [—]	— (—) [—]										
受験者数	— (—) [—]	257 (—) [—]	— (—) [—]										
合格者数	— (—) [—]	108 (—) [—]	— (—) [—]										
B 入学者数	— (—) [—]	64 (—) [—]	— (—) [—]										
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.06				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	— [—] (—)	64 [—] (—)	— [—] (—)									
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)								
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次					/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	64 [—] (—)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
平成29年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
平成30年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	64人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{64} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 理学療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	FA演習	1前	2			4		2	4		
	対人援助演習 I	1前	1								兼9
	対人援助演習 II	1後	1					1	1		兼13
	人権と倫理	1後		2							兼1
	人間関係 I	1前・1後		2							兼1
	医療倫理	1後		2							兼1
	日本語基礎	1前		2							兼1
	文章表現法	1後		2							兼1
	ソーシャルマナー I	1前		2							兼1
	ソーシャルマナー II	1後		2							兼1
	キャリアデザイン I	1前		2							兼1
	キャリアデザイン II	2後		2							兼1
	社会学	1前		2							兼1
	生活と統計	2前		2							兼1
	社会調査論	1後		2							兼1
	数学の原理	1前		2							兼1
	生物学	1後		2							兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2							兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後		2							兼1
	多文化共生	1後		2							兼1
	情報処理演習 I	1前		1							兼1
	情報処理演習 II	1前・1後		1							兼1
	スポーツ実技 I	1通		2							兼3
	スポーツ実技 II	1通		2							兼2
	ヘルスプロモーション	1前		1							兼1
	オールワークショップ(英語) I	1前		1							兼4
	オールワークショップ(英語) II	1後		1							兼4
	コミュニケーション(英語) I	2前		1							兼2
	コミュニケーション(英語) II	2後		1							兼2
	医療英語	2後		1				1			
	簿記会計	1後		2							兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2							兼1
	キャリアデザイン III	3後		2							兼1
	キャリアデザイン IV	3後		2							兼1
プレ演習 I	2前	2			4		2	4			
プレ演習 II	2後	2			2		1	1			
社会福祉 I	1前		2							兼1	
社会問題論	1後		2							兼1	
ジェンダー論	2前		2							兼1	
人間工学	2後		2							兼1	
心理学入門	1前		2							兼1	
発達心理学	2前		2							兼1	
障害者の心理	2後		2							兼1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	FA演習	1前	2			4		2	3		
	対人援助演習 I	1前	1								兼8
	対人援助演習 II	1後	1					1	1		兼13
	人権と倫理	1後		2							兼1
	人間関係 I	1前・1後		2							兼1
	医療倫理	1後		2							兼1
	日本語基礎	1前		2							兼2
	文章表現法	1後		2							兼2
	ソーシャルマナー I	1前		2							兼1
	ソーシャルマナー II	1後		2							兼1
	キャリアデザイン I	1前		2							兼1
	キャリアデザイン II	2後		2							兼1
	社会学	1前		2							兼1
	生活と統計	2前		2							兼1
	社会調査論	1後		2							兼1
	数学の原理	1前		2							兼1
	生物学	1後		2							兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2							兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後		2							兼1
	多文化共生	1後		2							兼1
	情報処理演習 I	1前		1							兼1
	情報処理演習 II	1前・1後		1							兼1
	スポーツ実技 I	1通		2							兼4
	スポーツ実技 II	1通		2							兼2
	ヘルスプロモーション	1前		1							兼1
	オールワークショップ(英語) I	1前		1							兼5
	オールワークショップ(英語) II	1後		1							兼5
	コミュニケーション(英語) I	2前		1							兼2
	コミュニケーション(英語) II	2後		1							兼2
	医療英語	2後		1				1			
	簿記会計	1後		2							兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2							兼1
	キャリアデザイン III	3後		2							兼1
	キャリアデザイン IV	3後		2							兼1
プレ演習 I	2前	2			4		2	4			
プレ演習 II	2後	2			2		1	1			
社会福祉 I	1前		2							兼1	
社会問題論	1後		2							兼1	
ジェンダー論	2前		2							兼1	
人間工学	2後		2							兼1	
心理学入門	1前		2							兼2	
発達心理学	2前		2							兼1	
障害者の心理	2後		2							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	高齢者の心理	2後		2							兼1
	医学知識	1前・1後		2							兼1
	リハビリテーション概論	1前	2			1					
	精神医学 I	2前	2								兼1
	教育心理学	1後		2							兼1
	特別支援教育原論	1前		2							兼1
小計(49科目)	-										
(専門・専門共通科目)	医療安全管理学	1前	1			1					
	チーム医療論演習	1後	1			1					
	内科学	1後	2								兼1
	人間発達学	1後		2		1					
	臨床心理学	3前	2								兼1
	リハビリテーション工学	2前		2							兼1
地域リハビリテーション学	3前		2							兼1	
小計(7科目)	-										
(理学療法学科専門科目)	理学療法概論	1前	1			1					
	解剖学 I	1前	2			1		1	1		
	解剖学 II	1前	2			1		1	1		
	解剖学演習	1後	1			1		1	1		
	生理学 I	1後	2			1		1	1		
	生理学 II	1後	2			1		1	1		
	生理学演習	2前	1			1		1	1		
	病理学概論	2前	1								兼1
	臨床検査学	2後	1								兼1
	薬理学	2前	1								兼1
	リハビリテーション栄養学	3後	1								兼1
	リハビリテーション医学	1後	2								兼2
	神経内科学 I	1後	2								兼1
	神経内科学 II	2前	2								兼1
	整形外科 I	1後	2								兼1
	整形外科 II	2前	2								兼1
	小児科学	3前	1								兼1
	画像診断学	3前	2								兼3
	生化学	4後		2							兼1
	免疫学	4後		2							兼1
	分子生物学	4後		1							兼1
	救急措置法演習	2後	1								兼1
	スポーツトレーニング学演習	3後		1					2		
	運動処方学演習	3後		1					2		
	スポーツ傷害学演習	3前		1							兼1
	身体運動学	1後	1			1					
	身体運動学演習	2前	1			1			3		
	運動発達学演習	2前	1			1					
	病態運動学	2後	1			1					
	理学療法専門基礎科目演習	3前	1			2		1	1		
	理学療法管理学	2後	2			1					
	評価学演習 I (概論)	1前	1						1		
評価学演習 II (身体計測)	1後	1						1			
評価学演習 III (運動器障害)	2前	1					1				
評価学演習 IV (中枢神経障害)	2後	1						1			
評価学総合演習	3後	1			1			1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	高齢者の心理	2後		2							兼1
	医学知識	1前・1後		2							兼1
	リハビリテーション概論	1前	2					1			
	精神医学 I	2前	2								兼1
	教育心理学	1後		2							兼1
	特別支援教育原論	1前		2							兼1
小計(49科目)	-										
(専門・専門共通科目)	医療安全管理学	1前	1			1					
	チーム医療論演習	1後	1			1					
	内科学	1後	2								兼1
	人間発達学	1後		2		1					
	臨床心理学	3前	2								兼1
	リハビリテーション工学	2前		2							兼1
地域リハビリテーション学	3前		2							兼1	
小計(7科目)	-										
(理学療法学科専門科目)	理学療法概論	1前	1			1					
	解剖学 I	1前	2			1		2		1	兼1
	解剖学 II	1前	2			1		2		1	兼1
	解剖学演習	1後	1			1		2		1	兼1
	生理学 I	1後	2			1		2		1	兼1
	生理学 II	1後	2			1		2		1	兼1
	生理学演習	2前	1			1		1		1	
	病理学概論	2前	1								兼1
	臨床検査学	2後	1								兼1
	薬理学	2前	1								兼1
	リハビリテーション栄養学	3後	1								兼1
	リハビリテーション医学	1後	2								兼1
	神経内科学 I	1後	2								兼1
	神経内科学 II	2前	2								兼1
	整形外科 I	1後	2								兼1
	整形外科 II	2前	2								兼1
	小児科学	3前	1								兼1
	画像診断学	3前	2								兼3
	生化学	4後		2							兼1
	免疫学	4後		2							兼1
	分子生物学	4後		1							兼1
	救急措置法演習	2後	1								兼1
	スポーツトレーニング学演習	3後		1						2	
	運動処方学演習	3後		1						2	
	スポーツ傷害学演習	3前		1							兼1
	身体運動学	1後	1			1					
	身体運動学演習	2前	1			1				3	
	運動発達学演習	2前	1			1					
	病態運動学	2後	1			1					
	理学療法専門基礎科目演習	3前	1			2		1	1		
	理学療法管理学	2後	2			1					
	評価学演習 I (概論)	1前	1							1	
評価学演習 II (身体計測)	1後	1							1		
評価学演習 III (運動器障害)	2前	1						1			
評価学演習 IV (中枢神経障害)	2後	1							1		
評価学総合演習	3後	1			1			1		1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(理学療法専門科目)	応用評価学演習	3前		1		1						
	運動療法学総論	2前	2			1						
	運動器障害理学療法学	2後	2			1		1				
	運動器障害理学療法学演習	3前	1			1		1				
	物理療法学	3前	2			1						
	物理療法学演習	3後	1			1						
	日常生活活動学演習	3前	1			1						
	脊髄障害理学療法学	2後	2			2						
	脊髄障害理学療法学演習	3前	1			2						
	中枢神経系障害理学療法学	2後	2			1						
	中枢神経系障害理学療法学演習	3前	1			1						
	発達障害理学療法学	2後	2			1						
	発達障害理学療法学演習	3前	1			1						
	呼吸・循環障害理学療法学	2後	2						1			
	呼吸・循環障害理学療法学演習	3前	1					1				
	代謝障害理学療法学	3後	1			1			1			
	神経筋疾患理学療法学	3後	1			1			1			
	義肢装具学	2前	2			1						
	義肢装具学演習	2後	1			1						
	地域生活環境論演習	2後	1			1						
	地域理学療法学演習	3後	1			1						
	高齢者理学療法学	3前	2			1						
	介護・傷害予防論	3後	1			2			1			
	臨床実習前学内演習(理学療法)	3前	1			1		1	1			
	臨床実習後学内演習(理学療法)	3後	1			1			2			
	理学療法学実習Ⅰ(見学)	1後	1			7		2	4			
	理学療法学実習Ⅱ(検査測定)	2後	1			7		2	4			
	理学療法学実習Ⅲ(評価)	3後	4			7		2	4			
	理学療法学実習Ⅳ(総合A)	4前	7			7		2	4			
	理学療法学実習Ⅴ(総合B)	4前	7			7		2	4			
	理学療法研究基礎	2後	1			1						
理学療法学演習ⅠA	3前	2			5		2	4				
理学療法学演習ⅠB	3後	2			5		2	4				
理学療法学演習Ⅱ	4後	4			5		2	4				
総合理学療法学演習	4後	1			1		1	1				
小計(71科目)	-											
合計(127科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目14単位以上(ただし外国語2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目110単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、理学療法士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(理学療法専門科目)	応用評価学演習	3前		1		1						
	運動療法学総論	2前	2			1						
	運動器障害理学療法学	2後	2			1		1				
	運動器障害理学療法学演習	3前	1			1		1				
	物理療法学	3前	2			1						
	物理療法学演習	3後	1			1						
	日常生活活動学演習	3前	1			1						
	脊髄障害理学療法学	2後	2			2						
	脊髄障害理学療法学演習	3前	1			2						
	中枢神経系障害理学療法学	2後	2			1						
	中枢神経系障害理学療法学演習	3前	1			1						
	発達障害理学療法学	2後	2			1						
	発達障害理学療法学演習	3前	1			1						
	呼吸・循環障害理学療法学	2後	2							1		
	呼吸・循環障害理学療法学演習	3前	1							1		
	代謝障害理学療法学	3後	1			1			1			
	神経筋疾患理学療法学	3後	1			1			1			
	義肢装具学	2前	2			1						
	義肢装具学演習	2後	1			1						
	地域生活環境論演習	2後	1			1						
	地域理学療法学演習	3後	1			1						
	高齢者理学療法学	3前	2			1						
	介護・傷害予防論	3後	1			2			1			
	臨床実習前学内演習(理学療法)	3前	1			1		1	1			
	臨床実習後学内演習(理学療法)	3後	1			1			2			
	理学療法学実習Ⅰ(見学)	1後	1			7		2	3			
	理学療法学実習Ⅱ(検査測定)	2後	1			7		2	4			
	理学療法学実習Ⅲ(評価)	3後	4			7		2	4			
	理学療法学実習Ⅳ(総合A)	4前	7			7		2	4			
	理学療法学実習Ⅴ(総合B)	4前	7			7		2	4			
	理学療法研究基礎	2後	1			1						
理学療法学演習ⅠA	3前	2			5		2	4				
理学療法学演習ⅠB	3後	2			5		2	4				
理学療法学演習Ⅱ	4後	4			5		2	4				
総合理学療法学演習	4後	1			1		1	1				
小計(71科目)	-											
合計(127科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目14単位以上(ただし外国語2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目110単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、理学療法士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 「FA演習」の専任教員の配置を「助教4」から「助教3」に変更。
- ・ 「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼9」から「兼8」に変更。
- ・ 「日本語基礎」「文章表現法」の兼任・兼担教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・ 「スポーツ実技Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼3」から「兼4」に変更。
- ・ 「オールワークショップ(英語)Ⅰ」「オールワークショップ(英語)Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼4」から「兼5」に変更。
- ・ 「心理学入門」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・ 「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」の専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に、「助教1」から「助教0」に変更し、兼任教員を追加(「兼1」)。
- ・ 「リハビリテーション医学」の兼任教員の配置を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・ 「理学療法実習Ⅰ(見学)」の専任教員の配置を「助教4」から「助教3」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	52 科目	0 科目	127 科目	75 科 [0]	52 科目 [0]	0 科目 [0]	127 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{127} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	7,774.34㎡	0㎡	0㎡	7,774.34㎡				
	運動場用地	15,710.80㎡	0㎡	0㎡	15,710.80㎡				
	小 計	23,485.14㎡	0㎡	0㎡	23,485.14㎡				
	そ の 他	21,190.55㎡	0㎡	0㎡	21,190.55㎡				
	合 計	44,675.69㎡	0㎡	0㎡	44,675.69㎡				
(2) 校舎	専 用	25,004.06㎡	0㎡	0㎡	25,004.06㎡				
	(25,004.06㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(25,004.06㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	33室	13室	48室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			令和元年9月 専任助教1名を新規採用のため(2)			
	保健医療学部 理学療法学科		14 室						
	保健医療学部 作業療法学科		8 室						
	保健医療学部 言語聴覚学科		9 8 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	視聴覚資料、機械・器具、標本は学部単位での特定不能なため、大学全体の数	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					点
	冊	種	[うち外国書]	(5607)	(947)	(59)			
	保健医療学部	11,240 [1,313]	62 [8]				2 [1]		(5607)
計	11,240 [1,313]	62 [8]	2 [1]	(5607)	(947)	(59)			
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	954.5㎡		214		105,000				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	1,377.1㎡		野球場1面		テニスコート4面				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	経費の見積り等は、大学全体 なお、図書費にはデータベースの整備費(運用コスト含む)を
		教員1人当り研究費等	480千円	480千円	図書購入費	4,825千円	3,272千円	3,385千円	
		共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	79,134千円	30,515千円	31,732千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,780千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	一千円	一千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		大阪人間科学大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人間科学部	4	195		1695		0.91	1.12		平成13	—	
社会福祉学科	4	80	3年次0	365	学士(社会福祉学)	0.82	1.20		平成13	大阪府摂津市正雀1-4-1	令和2年定員変更(△15)
医療福祉学科 介護福祉専攻	4	—	—	120	学士(医療福祉学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
医療福祉学科 視能訓練専攻	4	40	—	160	学士(医療福祉学)	0.94	1.05		平成24	同上	
子ども保育学科	4	75	3年次0	360	学士(子ども保育学)	0.74	1.09		平成24	同上	令和2年定員変更(△20)
健康心理学科	4	—	3年次0	270	学士(心理学)	—	—		平成17	同上	令和2年学生募集停止
医療心理学科 臨床発達心理専攻	4	—	—	120	学士(医療心理学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
医療心理学科 言語聴覚専攻	4	—	—	120	学士(医療心理学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
理学療法学科	4	—	—	180	学士(理学療法学)	—	—		平成28	同上	令和2年学生募集停止
心理学部	4	90		90		1.18	1.18		令和2	—	
心理学科	4	90	3年次0	90	学士(心理学)	1.18	1.18		令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
保健医療学部	4	140		140		1.01	1.01		令和2	—	
理学療法学科	4	60	—	60	学士(理学療法学)	1.06	1.06		令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
作業療法学科	4	40	—	40	学士(作業療法学)	1.02	1.02		令和2	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	40	学士(言語聴覚学)	0.92	0.92		令和2	同上	
大学全体	4	425		1925		0.91	1.10				
大学の名称		大阪人間科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
人間科学研究科	2	10	—	20	修士(人間科学)	0.60	0.40		平成18	大阪府摂津市正雀1-4-1	
大学院全体	2	10	—	20		0.60	0.40				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 理学療法学科>

(1) - ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授 (学科長)	山野 薫 (54) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	医療安全管理学 理学療法管理学 運動療法総論 運動器障害理学療法学※ 運動器障害理学療法学演習 地域生活環境論演習 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B) 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ 総合理学療法学演習※	専	教授 (学科長)	山野 薫 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	医療安全管理学 理学療法管理学 運動療法総論 運動器障害理学療法学※ 運動器障害理学療法学演習 地域生活環境論演習 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B) 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ 総合理学療法学演習※
専	教授	奥 壽郎 (54) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	F A 演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 介護・傷害予防論※ 評価学総合演習※ 物理療法学 物理療法学演習 代謝障害理学療法学※ 神経筋疾患理学療法学※ 高齢者理学療法学 地域理学療法学演習 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B) 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ	専	教授	奥 壽郎 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	F A 演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 介護・傷害予防論※ 評価学総合演習※ 物理療法学 物理療法学演習 代謝障害理学療法学※ 神経筋疾患理学療法学※ 高齢者理学療法学 地域理学療法学演習 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B) 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ
				専	教授	阪本 英二 (56) <令和2年4月> 医学博士	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
専	教授	杉生 真一 (46) <令和2年4月> 博士(歯学)	F A 演習 ブレ演習Ⅰ 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学演習 理学療法専門基礎科目演習※ 介護・傷害予防論※ 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ	専	教授	杉生 真一 (47) <令和2年4月> 博士(歯学)	F A 演習 ブレ演習Ⅰ 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学演習 理学療法専門基礎科目演習※ 介護・傷害予防論※ 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ
専	教授	武田 功 (78) <令和2年4月> 博士(医療福祉学)	日常生活活動学演習 脊髄障害理学療法学 脊髄障害理学療法学演習 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B)	専	教授	武田 功 (79) <令和2年4月> 博士(医療福祉学)	日常生活活動学演習 脊髄障害理学療法学 脊髄障害理学療法学演習 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B)
専	教授	長倉 裕二 (56) <令和2年4月> 博士(保健学)	F A 演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 理学療法研究基礎 義肢装具学 義肢装具学演習 臨床実習後学内演習(理学療法)※ 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B) 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ	専	教授	長倉 裕二 (57) <令和2年4月> 博士(保健学)	F A 演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 理学療法研究基礎 義肢装具学 義肢装具学演習 臨床実習後学内演習(理学療法)※ 理学療法学実習Ⅰ(見学) 理学療法学実習Ⅱ(検査測定) 理学療法学実習Ⅲ(評価) 理学療法学実習Ⅳ(総合A) 理学療法学実習Ⅴ(総合B) 理学療法学演習ⅠA 理学療法学演習ⅠB 理学療法学演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	廣瀬 浩昭 (50) <令和2年4月> 博士(保健学)	専	教授	廣瀬 浩昭 (51) <令和2年4月> 博士(保健学)
		F A 演習 ブレ演習 I 理学療法専門基礎科目演習※ 身体運動学 身体運動学演習※ 病態運動学 応用評価学演習 脊髄障害理学療法 脊髄障害理学療法演習 臨床実習前学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II			F A 演習 ブレ演習 I 理学療法専門基礎科目演習※ 身体運動学 身体運動学演習※ 病態運動学 応用評価学演習 脊髄障害理学療法 脊髄障害理学療法演習 臨床実習前学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II
専	教授	山川 友康 (72) <令和2年4月> 修士(社会学)※	専	教授	山川 友康 (73) <令和2年4月> 修士(社会学)※
		リハビリテーション概論 人間発達学 運動発達学演習 発達障害理学療法 発達障害理学療法演習 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B)			リハビリテーション概論 人間発達学 運動発達学演習 発達障害理学療法 発達障害理学療法演習 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B)
専	教授	弓岡 光徳 (65) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	専	教授	弓岡 光徳 (66) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		子一ム医療演習 理学療法概論 中枢神経系障害理学療法 中枢神経系障害理学療法演習 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B)			子一ム医療演習 理学療法概論 中枢神経系障害理学療法 中枢神経系障害理学療法演習 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B)
専	講師	奥村 裕 (45) <令和2年4月> 修士(保健学)	専	講師	奥村 裕 (46) <令和2年4月> 修士(保健学)
		F A 演習 対人援助演習 II ※ ブレ演習 I ブレ演習 II 評価学演習 III (運動器障害) 運動器障害理学療法※ 運動器障害理学療法演習 臨床実習前学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II			F A 演習 対人援助演習 II ※ ブレ演習 I ブレ演習 II 評価学演習 III (運動器障害) 運動器障害理学療法※ 運動器障害理学療法演習 臨床実習前学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II
専	講師	金澤 佑治 (33) <令和2年4月> 博士(医学)	専	講師	金澤 佑治 (34) <令和2年4月> 博士(医学)
		F A 演習 医療英語 ブレ演習 I 解剖学 I 解剖学 II 解剖学演習 生理学 I 生理学 II 生理学演習 理学療法専門基礎科目演習※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II 総合理学療法演習※			F A 演習 医療英語 ブレ演習 I 解剖学 I 解剖学 II 解剖学演習 生理学 I 生理学 II 生理学演習 理学療法専門基礎科目演習※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II 総合理学療法演習※
専	助教	岡山 裕美 (33) <令和2年4月> 修士(スポーツ科学)	専	助教	岡山 裕美 (34) <令和2年4月> 修士(スポーツ科学)
		F A 演習 ブレ演習 I 身体運動学演習※ 評価学総合演習※ スポーツトレーニング学演習※ 運動処方学演習※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II			F A 演習 ブレ演習 I 身体運動学演習※ 評価学総合演習※ スポーツトレーニング学演習※ 運動処方学演習※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	田中 雅侑 (31) <令和2年4月> 博士(保健学)	専	助教	
		F A 演習 ブレ演習 I ブレ演習 II 解剖学 I 解剖学 II 解剖学演習 生理学 I 生理学 II 生理学演習 理学療法専門基礎科目演習※ 臨床実習後学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II			
専	助教	玉田 良樹 (40) <令和2年4月> 修士(スポーツ健康学)	専	助教	玉田 良樹 (41) <令和2年4月> 修士(スポーツ健康学)
		F A 演習 ブレ演習 I 身体運動学演習※ 評価学演習 IV (中枢神経障害) スポーツトレーニング学演習※ 運動処方学演習※ 呼吸・循環障害理学療法 呼吸・循環障害理学療法演習 代謝障害理学療法※ 神経筋疾患理学療法※ 臨床実習前学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II			F A 演習 ブレ演習 I 身体運動学演習※ 評価学演習 IV (中枢神経障害) スポーツトレーニング学演習※ 運動処方学演習※ 呼吸・循環障害理学療法 呼吸・循環障害理学療法演習 代謝障害理学療法※ 神経筋疾患理学療法※ 臨床実習前学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II
専	助教	弓岡 まみ (32) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)	専	助教	弓岡 まみ (33) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)
		F A 演習 対人援助演習 II ※ ブレ演習 I 介護・傷害予防論※ 身体運動学演習※ 評価学演習 I (概論) 評価学演習 II (身体計測) 臨床実習後学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II 総合理学療法演習※			F A 演習 対人援助演習 II ※ ブレ演習 I 介護・傷害予防論※ 身体運動学演習※ 評価学演習 I (概論) 評価学演習 II (身体計測) 臨床実習後学内演習(理学療法)※ 理学療法実習 I (見学) 理学療法実習 II (検査測定) 理学療法実習 III (評価) 理学療法実習 IV (総合 A) 理学療法実習 V (総合 B) 理学療法演習 I A 理学療法演習 I B 理学療法演習 II 総合理学療法演習※
兼任	教授(学長)	田中 保和 (68) <令和2年4月> 工学修士 対人援助演習 II ※	兼任	教授(学長)	田中 保和 (69) <令和2年4月> 工学修士 対人援助演習 II ※
兼任	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (67) <令和2年4月> 医学博士 キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 人間関係Ⅰ	兼任	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (68) <令和2年4月> 医学博士 キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 人間関係Ⅰ 内科学 神経内科学Ⅰ
兼任	教授	井上 千一 (64) <令和2年4月> 商学修士 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			
兼任	教授	加藤 敬徳 (65) <令和2年4月> 学士(医学) 精神医学Ⅰ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ	兼任	教授	加藤 敬徳 (66) <令和2年4月> 学士(医学) 精神医学Ⅰ 神経内科学Ⅱ
兼任	教授	久家 義之 (63) <令和2年4月> 学士(医学) 医学知識	兼任	教授	久家 義之 (64) <令和2年4月> 学士(医学) 医学知識
兼任	教授	佐光 健 (47) <令和2年4月> 修士(社会福祉学) 社会問題論	兼任	教授	佐光 健 (48) <令和2年4月> 修士(社会福祉学) 社会問題論
兼任	教授	武田 卓也 (44) <令和2年4月> 博士(社会学) 対人援助演習 II ※	兼任	教授	武田 卓也 (45) <令和2年4月> 博士(社会学) 対人援助演習 II ※
兼任	教授	辻 薫 (60) <令和2年9月> 文学士※ 対人援助演習 II ※	兼任	教授	辻 薫 (61) <令和2年9月> 文学士※ 対人援助演習 II ※
兼任	教授	鶴野 隆浩 (57) <令和2年4月> 博士(社会福祉学) 対人援助演習 II ※ 社会福祉Ⅰ	兼任	教授	鶴野 隆浩 (58) <令和2年4月> 博士(社会福祉学) 対人援助演習 II ※ 社会福祉Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	中川 昭夫 (69) <令和2年4月> 博士(保健学)	兼任	教授	中川 昭夫 (70) <令和2年4月> 博士(保健学)
		リハビリテーション工学			リハビリテーション工学
			兼任	教授	羽根 隆 (60) <令和2年4月> 文学士
					オラクル・システム (英語) I オラクル・システム (英語) II
兼任	教授	日上 耕司 (59) <令和2年4月> 博士(心理学)	兼任	教授	日上 耕司 (60) <令和2年4月> 博士(心理学)
		特別支援教育原論			特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (61) <令和2年4月> 教育学士	兼任	教授	宮崎 佐利 (62) <令和2年4月> 教育学士
		日本語基礎 文章表現法			日本語基礎 文章表現法
兼任	准教授	東 千冬 (57) <令和2年4月> 文学修士	兼任	准教授	東 千冬 (58) <令和2年4月> 文学修士
		対人援助演習 II ※			対人援助演習 II ※
兼任	准教授	城越 幸一 (56) <令和2年4月> 体育学士	兼任	准教授	城越 幸一 (57) <令和2年4月> 体育学士
		対人援助演習 II ※ スポーツ実技 I ヘルスプロモーション			対人援助演習 II ※ スポーツ実技 I ヘルスプロモーション
兼任	准教授	秦 康宏 (55) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	准教授	秦 康宏 (56) <令和2年4月> 修士(学術)
		多文化共生			多文化共生
兼任	准教授	樹田 浩三 (48) <令和2年4月> 医科学修士			
		対人援助演習 II ※			
			兼任	講師	中山 奈々美 (37) <令和2年4月> 医学博士
					対人援助演習 II ※
兼任	准教授	丸山 亜実 (48) <令和2年4月> 社会学士	兼任	准教授	丸山 亜実 (49) <令和2年4月> 社会学士
		対人援助演習 II ※			対人援助演習 II ※
兼任	講師	木下 亮平 (33) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	木下 亮平 (34) <令和2年4月> 修士(保健学)
		対人援助演習 II ※ 地域リハビリテーション学			対人援助演習 II ※ 地域リハビリテーション学
兼任	助教	筒井 優介 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学)	兼任	助教	筒井 優介 (41) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習 II ※			対人援助演習 II ※
兼任	助教	青木 弥穂 (43) <令和2年4月> 学士(理学)	兼任	助教	青木 弥穂 (44) <令和2年4月> 学士(理学)
		対人援助演習 II ※			対人援助演習 II ※
兼任	助教	岡 孝夫 (45) <令和2年4月> 心理学士	兼任	助教	岡 孝夫 (46) <令和2年4月> 心理学士
		対人援助演習 II ※			対人援助演習 II ※
兼任	助教	釣井 達也 (34) <令和2年4月> 博士(理学)			
		対人援助演習 II ※			
			兼任	講師	中村 かおり (48) <令和2年4月> 修士(臨床教育学)
					対人援助演習 II ※
兼任	講師	赤田 知華子 (39) <令和2年4月> 修士(人間科学)	兼任	講師	赤田 知華子 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習 I ジェンダー論			対人援助演習 I ジェンダー論 人権と倫理
兼任	講師	穂久 宗徳 (48) <令和2年4月> 学士(農学)	兼任	講師	穂久 宗徳 (49) <令和2年4月> 学士(農学)
		対人援助演習 I			対人援助演習 I
			兼任	講師	上田 智巳 <令和2年4月> (45) <令和2年4月> 修士(文学)
					情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	岡村 圭介 (32) <令和4年4月> 学士(医学)	兼任	講師	岡村 圭介 (33) <令和4年4月> 学士(医学)
		画像診断学※			画像診断学※
兼任	講師	伊藤 僚祐 (27) <令和2年4月> 修士(理学)	兼任	講師	伊藤 僚祐 (28) <令和2年4月> 修士(理学)
		生物学			生物学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	植田 瑞穂 (29) <令和2年4月> 心理学修士 対人援助演習 I
兼任	講師	遠藤 たまえ (58) <令和2年4月> 修士(人間科学) 対人援助演習 I
兼任	講師	沖塩 尚孝 (44) <令和2年4月> 修士(文学) リハビリテーション医学※ 画像診断学※
兼任	講師	奥村 命子 (54) <令和2年4月> 社会学士 ソーシャルマナー I ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (57) <令和2年4月> 修士(学術) スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (61) <令和2年4月> 文学士 視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (29) <令和2年4月> 修士(人間科学) 心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (51) <令和2年4月> 高等学校卒 スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (45) <令和2年4月> 修士(社会学) 対人援助演習 I
兼任	講師	坂田 隆志 (64) <令和3年4月> 工学士 救急措置法演習
兼任	講師	佐藤 泰子 (59) <令和2年4月> 博士(人間・環境学) 医療倫理 臨床検査学
兼任	講師	島村 敏生 (65) <令和2年4月> 文学士 オラクル・クソップ(英語) I オラクル・クソップ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	白井 三千代 (60) <令和2年4月> 修士(国文学) ・修士(社会学) 対人援助演習 I
兼任	講師	高木 恭子 (47) <令和3年4月> 修士(工学) 人間工学
兼任	講師	田口 周 (29) <令和4年4月> 学士(医学) 画像診断学※
兼任	講師	堤 聖月 (27) <令和3年4月> 修士(心理学) 発達心理学
兼任	講師	水流 寛二 (52) <令和2年4月> 体育学士 対人援助演習 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	植田 瑞穂 (30) <令和2年4月> 心理学修士 対人援助演習 I
兼任	講師	遠藤 たまえ (59) <令和2年4月> 修士(人間科学) 対人援助演習 I
兼任	講師	奥村 命子 (55) <令和2年4月> 社会学士 ソーシャルマナー I ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (58) <令和2年4月> 修士(学術) スポーツ実技 I
兼任	講師	木谷 織信 (67) <令和2年4月> 体育学士 スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (62) <令和2年4月> 文学士 視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (30) <令和2年4月> 修士(人間科学) 心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (52) <令和2年4月> 高等学校卒 スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (46) <令和2年4月> 修士(社会学) 対人援助演習 I
兼任	講師	斎藤 佳子 (29) <令和2年4月> 修士(文学) 日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	坂田 隆志 (65) <令和3年4月> 工学士 救急措置法演習
兼任	講師	佐藤 泰子 (60) <令和2年4月> 博士(人間・環境学) 医療倫理 臨床検査学
兼任	講師	島村 敏生 (66) <令和2年4月> 文学士 オラクル・クソップ(英語) I オラクル・クソップ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	高木 恭子 (48) <令和3年4月> 修士(工学) 人間工学
兼任	講師	田口 周 (30) <令和4年4月> 学士(医学) 画像診断学※
兼任	講師	田中 雅侑 (32) <令和2年4月> 博士(保健学) 解剖学 I 解剖学 II 解剖学演習 生理学 I 生理学 II
兼任	講師	堤 聖月 (28) <令和3年4月> 修士(心理学) 発達心理学
兼任	講師	水流 寛二 (53) <令和2年4月> 体育学士 対人援助演習 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	田 麗 (60) <令和2年4月> 博士(医学)			
		内科学 病理学概論 小児科学			
兼任	講師	豊島(山本) 彩 (30) <令和3年4月> 博士(人間科学)	兼任	講師	豊島(山本) 彩 (31) <令和3年4月> 博士(人間科学)
		高齢者の心理			高齢者の心理
兼任	講師	中路 曜子 (33) <令和3年4月> 修士(心理学)	兼任	講師	中路 曜子 (34) <令和3年4月> 修士(心理学)
		障害者の心理			障害者の心理
兼任	講師	中西(荒木) 美穂 (50) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任	講師	中西(荒木) 美穂 (51) <令和2年4月> 修士(文学)
		対人援助演習 I			対人援助演習 I
兼任	講師	西沢 敏美 (64) <令和2年4月> 法学士	兼任	講師	西沢 敏美 (65) <令和2年4月> 法学士
		キャリアデザイン I キャリアデザイン II			キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	長谷 公隆 (59) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	長谷 公隆 (60) <令和2年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション医学※			リハビリテーション医学※
兼任	講師	濱田 太郎 (41) <令和4年4月> 学士(保健科学)	兼任	講師	濱田 太郎 (42) <令和4年4月> 学士(保健科学)
		スポーツ障害学演習			スポーツ障害学演習
兼任	講師	林 可奈子 (36) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)	兼任	講師	林 可奈子 (37) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)
		オールウェークショップ(英語) I オールウェークショップ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II			オールウェークショップ(英語) I オールウェークショップ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	平井 崇晴 (54) <令和2年4月> 理学博士			
		数学の原理 社会人基礎学力(数学)			
			兼任	講師	後藤田 洋介 (27) <令和2年4月> 修士(教育学)
					数学の原理 社会人基礎学力(数学)
兼任	講師	平柳 行雄 (68) <令和2年4月> 商学士・Master of Arts(米 国)	兼任	講師	平柳 行雄 (69) <令和2年4月> 商学士・Master of Arts(米 国)
		オールウェークショップ(英語) I オールウェークショップ(英語) II			オールウェークショップ(英語) I オールウェークショップ(英語) II
兼任	講師	藤井 涉 (40) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)			
		人権と倫理			
兼任	講師	藤村 邦博 (68) <令和2年4月> 文学修士	兼任	講師	藤村 邦博 (69) <令和2年4月> 文学修士
		教育心理学			教育心理学 心理学入門
兼任	講師	彭 徳子 (48) <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	彭 徳子 (49) <令和5年4月> 博士(医学)
		生化学 免疫学			生化学 免疫学
兼任	講師	細谷 周史 (44) <令和3年4月> 修士(心理学)	兼任	講師	細谷 周史 (45) <令和3年4月> 修士(心理学)
		生活と統計			生活と統計
兼任	講師	石原 昂祐 (30) <令和2年4月> 学士(社会福祉学)	兼任	講師	石原 昂祐 (31) <令和2年4月> 学士(社会福祉学)
		対人援助演習 I			対人援助演習 I
兼任	講師	藤本 恵子 (55) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	藤本 恵子 (56) <令和2年4月> 修士(学術)
		オールウェークショップ(英語) I オールウェークショップ(英語) II			オールウェークショップ(英語) I オールウェークショップ(英語) II
兼任	講師	山岡 伸行 (60) <令和2年4月> 医学博士			
		整形外科学 I 整形外科学 II			
			兼任	講師	村尾 浩 (57) <令和2年4月> 博士(医学)
					整形外科学 I 整形外科学 II
兼任	講師	山口 信子 (58) <令和2年4月> 高等学校卒	兼任	講師	山口 信子 (59) <令和2年4月> 高等学校卒
		聴覚障害者への理解と手話			聴覚障害者への理解と手話

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	山口 芳香 (55) <令和3年4月> 博士(理学)	兼任	講師	山口 芳香 (56) <令和3年4月> 博士(理学)
		薬理学			薬理学
兼任	講師	柴田(吉崎) 和子 (50) <令和2年4月> 社会学修士	兼任	講師	柴田(吉崎) 和子 (51) <令和2年4月> 社会学修士
		社会学 社会調査論			社会学 社会調査論
兼任	講師	吉田 育弘 (51) <令和2年4月> 経済学士	兼任	講師	吉田 育弘 (52) <令和2年4月> 経済学士
		簿記会計			簿記会計
兼任	講師	吉田 美智子 (62) <令和2年4月> 体育学士	兼任	講師	吉田 美智子 (63) <令和2年4月> 体育学士
		スポーツ実技 I スポーツ実技 II			スポーツ実技 I スポーツ実技 II
兼任	講師	石川 眞理子 (64) <令和4年4月> 修士(人間科学)	兼任	講師	石川 眞理子 (65) <令和4年4月> 修士(人間科学)
		臨床心理学			臨床心理学
兼任	講師	島田 点心 (42) <令和4年4月> 栄養学士	兼任	講師	島田 点心 (43) <令和4年4月> 栄養学士
		リハビリテーション栄養学			リハビリテーション栄養学
兼任	講師	石井 禎基 (55) <令和5年4月> 博士(理学)	兼任	講師	石井 禎基 (56) <令和5年4月> 博士(理学)
		分子生物学			分子生物学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の過年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・専任教員に「阪本英二教授」就任（「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」担当）。
- ・専任「田中雅侑助教」就任辞退、兼任講師に変更（「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」担当）。
- ・「内科学」の「田麗兼任講師」を「山岸正和兼任教授」に変更。
- ・「神経内科学Ⅰ」の「加藤敬徳兼任教授」を「山岸正和兼任教授」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」の「井上千一兼任教授」を「上田智己兼任講師」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の担当教員に「羽根隆兼任教授」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の「榎田浩三兼任准教授」を「中山奈々美兼任講師」に、「釣井達也兼任助教」を「中村かおり兼任講師」に変更。
- ・「人権と倫理」の「藤井渉兼任講師」を「赤田知華子兼任講師」に変更。
- ・「リハビリテーション医学」の担当教員から「沖塩尚孝兼任講師」を退職により削除。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の担当教員に「木谷織信兼任講師」を追加。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の担当教員に「斎藤佳子兼任講師」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の担当教員から「白井三千代兼任講師」を退職により削除。
- ・「数学の原理」「社会人基礎学力（数学）」の「平井崇晴兼任講師」を「後藤田洋介兼任講師」に変更。
- ・「心理学入門」の担当教員に「藤村邦博兼任講師」を追加。
- ・「整形外科Ⅰ」の「山岡伸行兼任講師」を「村尾浩兼任講師」に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
8	0	2	4	14	0	9	0	2	3	14	0
(8)	(0)	(2)	(4)	(14)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
9	0	2	3	14	0	9	0	2	3	14	0
[1]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[0]	[1]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{14}{14} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{14} = \boxed{21.42} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	田中 雅侑	R2.3	必修	FA演習	①	R2年3月 他大学への転出のため就任辞退（2）			
				必修	プレ演習Ⅰ	①				
				必修	プレ演習Ⅱ	①				
				必修	解剖学Ⅰ	①				
				必修	解剖学Ⅱ	①				
				必修	解剖学演習	①				
				必修	生理学Ⅰ	①				
				必修	生理学Ⅱ	①				
				必修	生理学演習	①				
				必修	理学療法専門基礎科目演習	①				
				必修	臨床実習後学内演習（理学療法）	①				
				必修	理学療法実習Ⅰ（見学）	①				
				必修	理学療法実習Ⅱ（検査測定）	①				
				必修	理学療法実習Ⅲ（評価）	①				
				必修	理学療法実習Ⅳ（総合A）	①				
				必修	理学療法実習Ⅴ（総合B）	①				
必修	理学療法演習ⅠA	①								
必修	理学療法演習ⅠB	①								
必修	理学療法演習Ⅱ	①								
合計（D）			後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	19	科目	必修	19	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	19	科目	計	19	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）			後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1 人	必修	19 科目	必修	19 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	19 科目	計	19 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{14} = \boxed{7.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>田中雅侑助教の就任辞退にあたり、阪本英二教授を任用することとした。 なお、学生へは学生便覧、Webシラバス及び時間割等により周知されている。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。 遵守事項	本学部の教育研究の水準を維持向上させるために、教員組織編成の将来構想を明確にした。また、今後の採用計画の方針についても策定した。	履行中 本学部の専任教員の内、本学の定める「教育職員の定年（65歳）」を超えるものが完成年度において9名となる。この9名の教授する科目分野を中心とした若手教員の採用について積極的に行う予定である。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では開学以来「FD委員会」を設置し、FD活動を推進してきた。委員長は教学部長であり、各学科の代表委員と幹部事務職員でその活動を行っている。なお、平成29年度からはSDの義務化に対応するために「FD委員会」と「SD委員会」を統合し、「FD・SD委員会」として活動を行っている。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>「FD・SD委員会」は毎月1回の定例委員会を開催している。参加メンバーは、教学部長を委員長とし、各学科から教員が1名ずつ委員となっている。定例委員会の教員の参加率は100%に近い。また、年に1回以上は委員会主催の「FD・SD研修会」を全教職員対象に実施している。令和元年度は令和2年3月5日に「学生の理解を深める工夫について」というテーマで「授業改善に役立つ動画教材の紹介」と「アクティブ・ラーニング はじめの一歩」などの講演を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から集合形式の研修会は中止とした。なお、それに代わる研修会として、関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材「シリーズ 大学の授業を極める(1)講義法」を各自が視聴するという形式で実施した。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>令和元年度の「FD・SD委員会」は、①「学生による授業評価」の実施について、②FD・SD研修会について、③新任教員オリエンテーションの開催について、④ピアレビュー・グループ活動について、⑤学外の各種FD研修会や他大学の取り組み研究などについて、実施の準備から実施結果の反省まで討議・審議を行った。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任教員オリエンテーション研修会(4月) ・FD・SD研修会(3月) ・学生による授業評価(7月、1月) ・教員相互による授業参観月間の実施(7月～12月) <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新任教員オリエンテーション研修会」は、平成26年度以降毎年4月に実施し、新任教員が参加している。 ・「FD・SD研修会」は、令和元年度は令和2年3月5日に「学生の理解を深める工夫について」というテーマで実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から集合形式の研修会は中止とした。なお、それに代わる研修会として、関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材「シリーズ 大学の授業を極める(1)講義法」を各自が視聴するという形式で実施した。 ・「学生による授業評価」は、前期と後期にほぼすべての科目について「アンケート用紙への自記式」により実施し、その結果は学生と教員に公開している。 ・「教員相互による授業参観」は、学科を超えたペアリングで実施し、教員同士のピア・レビュー活動として定着している。 <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新任教員オリエンテーション研修会」は、平成31年度は4名全員が、令和2年度は10名全員が参加した。 ・「FD・SD研修会」は集合形式の研修会は中止としたが、62名の教員が「動画教材」の視聴研修を受講した。 ・「学生による授業評価」では、非常勤も含め9割以上の教員が実施した。 ・「教員相互の授業参観」では、ほぼ全ての専任教員において実施された。
--

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

年2回実施している学生による授業評価は定着している。学生にフィードバックするとともに、教員自身の自分の授業を見つめてもらう目的で、リフレクションペーパーを提出してもらっている。
また令和元年度も教員同士の「ピアレビュー・グループ活動（教員相互の授業参観）」について取り組み、令和元年7月～12月にかけてほぼ全ての専任教員において実施され、事後の報告書も全教員から提出された。
さらに、平成25年度から積極運用を開始した「学修ポートフォリオ」の活用についてもその活用状況調査を実施し、全学本格運用に向けて取り組みを推進中である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生による授業評価は、平成16年度より、毎年度2回（前期と後期）に実施している。その結果は、当該教員にフィードバックされ、授業改善に役立てることとしている。平成17年度より、専任教員には義務化された。また、非常勤の教員が担当する授業の学生による授業評価の実施は、当該教員の意志に任されていたが、平成22年度より自己点検・評価委員会より積極的実施を依頼し、9割以上の非常勤教員の授業において実施されている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果の利用については、平成16年から19年までは当該教員にのみ返却されていたが、平成20年度より、学部長、各学科長が閲覧することとした。平成24年度以降は毎年、学内SNSであるユニバーサルパスポート上で学生及び教職員にも公開している。また、平成30年度後期からはユニバーサルパスポート上での公開に加えて、大学ホームページでも全体の集計結果を公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「共生社会」の実現を目指す本学の教育において、保健医療学部は「人間の日常生活の保障」を目指すべき理念とする。

保健医療学部では、学士課程において理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成教育を実施し、国家資格取得を目指すとともに、対人援助の職に就くために必須となる倫理観からコミュニケーション能力まで包含した全人教育を実施する。

保健医療の知識や、高齢者、障がい児・者への理解をベースに、人間のからだのしくみをはじめ、地域社会におけるリハビリテーションの在り方に至る学びを通し、小児から高齢者まで、幅広い層の対人援助に対応できる実践能力を備えた人間味豊かな理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の育成を目指すと共に、保健医療、福祉領域の発展に貢献していくことを教育研究上の目的とする。

令和2年度に教育活動を開始した本学部においては、その目的達成の緒に就いたところである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 令和3年10月公表予定

b 公表方法

- ・ 大学ホームページで公開予定 (<http://www.ohs.ac.jp/>)

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成29年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）による大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準に適合しているとの認定」を得た。次回は令和6年度を計画している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 薫英学園

(2) 大学名

大阪人間科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒566-8501
大阪府摂津市正雀1丁目4番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ ミチオ) 小川 道雄 (昭和60年10月)		
学長	(タナカ ヤスカズ) 田中 保和 (平成29年4月)		
学部長	(ヤマギシ マサカズ) 山岸 正和 (令和2年4月)		
学科長等	(フルカワ ヒロシ) 古川 宏 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 作業療法学科 学士 (作業療法学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	40人	— 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	40 (—) [—]	— (—) [—]	1.02倍	一倍								
志願者数	— (—) [—]	157 (—) [—]	— (—) [—]										
受験者数	— (—) [—]	139 (—) [—]	— (—) [—]										
合格者数	— (—) [—]	76 (—) [—]	— (—) [—]										
B 入学者数	— (—) [—]	41 (—) [—]	— (—) [—]										
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.02				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	— [—] (—)	41 [—] (—)	— [—] (—)									
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)								
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次					/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	41 [—] (—)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
平成29年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
平成30年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	41人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留學生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{41} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 作業療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	FA演習	1前	2			3						
	対人援助演習Ⅰ	1前	1									兼9
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1		1				兼13
	人権と倫理	1後		2								兼1
	人間関係Ⅰ	1前・1後		2								兼1
	医療倫理	1後		2								兼1
	日本語基礎	1前		2								兼1
	文章表現法	1後		2								兼1
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2								兼1
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2								兼1
	キャリアデザインⅠ	1前		2								兼1
	キャリアデザインⅡ	2後		2								兼1
	社会学	1前		2								兼1
	生活と統計	2前		2								兼1
	社会調査論	1後		2								兼1
	数学の原理	1前		2								兼1
	生物学	1後		2								兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2								兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後		2								兼1
	多文化共生	1後		2								兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1								兼1
	情報処理演習Ⅱ	1前・1後		1								兼1
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2								兼3
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2								兼2
	ヘルスプロモーション	1前		1								兼1
	オールワークショップ(英語)Ⅰ	1前		1								兼4
	オールワークショップ(英語)Ⅱ	1後		1								兼4
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1								兼2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1								兼2
	医療英語	2後		1								兼1
	簿記会計	1後		2								兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2								兼1
	キャリアデザインⅢ	3後		2								兼1
	キャリアデザインⅣ	3後		2								兼1
プレ演習Ⅰ	2前	2			1		2					
プレ演習Ⅱ	2後	2			1		2					
社会福祉Ⅰ	1前		2								兼1	
社会問題論	1後		2								兼1	
ジェンダー論	2前		2								兼1	
人間工学	2後		2								兼1	
心理学入門	1前		2								兼1	
発達心理学	2前		2								兼1	
障害者の心理	2後		2								兼1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	FA演習	1前	2			3						
	対人援助演習Ⅰ	1前	1									兼8
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1		1				兼13
	人権と倫理	1後		2								兼1
	人間関係Ⅰ	1前・1後		2								兼1
	医療倫理	1後		2								兼1
	日本語基礎	1前		2								兼2
	文章表現法	1後		2								兼2
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2								兼1
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2								兼1
	キャリアデザインⅠ	1前		2								兼1
	キャリアデザインⅡ	2後		2								兼1
	社会学	1前		2								兼1
	生活と統計	2前		2								兼1
	社会調査論	1後		2								兼1
	数学の原理	1前		2								兼1
	生物学	1後		2								兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2								兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後		2								兼1
	多文化共生	1後		2								兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1								兼1
	情報処理演習Ⅱ	1前・1後		1								兼1
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2								兼4
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2								兼2
	ヘルスプロモーション	1前		1								兼1
	オールワークショップ(英語)Ⅰ	1前		1								兼5
	オールワークショップ(英語)Ⅱ	1後		1								兼5
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1								兼2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1								兼2
	医療英語	2後		1								兼1
	簿記会計	1後		2								兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2								兼1
	キャリアデザインⅢ	3後		2								兼1
	キャリアデザインⅣ	3後		2								兼1
プレ演習Ⅰ	2前	2				1		2				
プレ演習Ⅱ	2後	2				1		2				
社会福祉Ⅰ	1前		2								兼1	
社会問題論	1後		2								兼1	
ジェンダー論	2前		2								兼1	
人間工学	2後		2								兼1	
心理学入門	1前		2								兼2	
発達心理学	2前		2								兼1	
障害者の心理	2後		2								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	高齢者の心理	2後		2							兼1
	医学知識	1前・1後		2							兼1
	リハビリテーション概論	1前	2								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	2								兼1
	教育心理学	1後		2							兼1
	特別支援教育原論	1前		2							兼1
	小計(49科目)	-									
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前	1								兼1
	チーム医療論演習	1後	1								兼1
	内科学	1後	2								兼1
	人間発達学	1後	2								兼1
	臨床心理学	3前		2							兼1
	リハビリテーション工学	2前		2	1						兼1
	地域リハビリテーション学	3前	2				1				兼1
	小計(7科目)	-									
(作業療法学専門科目)	作業療法学概論	1前	1			1					
	基礎作業学	1前	1			1					
	解剖学Ⅰ	1前	2								兼3
	解剖学Ⅱ	1前	2								兼3
	解剖学演習	1後	1								兼3
	生理学Ⅰ	1後	2								兼3
	生理学Ⅱ	1後	2								兼3
	生理学演習	2前	1								兼3
	救急措置法演習	2後	1								兼1
	病理学概論	2前	1								兼1
	運動発達学演習	2前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	2								兼2
	神経内科学Ⅰ	1後	2								兼1
	神経内科学Ⅱ	2前	2								兼1
	整形外科Ⅰ	1後	2								兼1
	整形外科Ⅱ	2前	2								兼1
	小児科学	2前	1								兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1								兼1
	基礎作業学演習Ⅰ	1前	2			1		1			
	基礎作業学演習Ⅱ	1後	1			1		1			
	作業療法運動学	2前	1			2					
	作業療法運動学演習	2後	2			2					
	作業療法管理学	4後	2			2					
	作業療法評価学	1後	1			1					
	身体障害作業療法評価学	2前	1			1			1		
	精神障害作業療法評価学	2後	1					1			
	作業療法評価学演習	2後	2			2		1			
	身体障害作業療法治療学Ⅰ	2前	1			1			1		
	身体障害作業療法治療学Ⅱ	2後	1			1					
	身体障害作業療法治療学演習Ⅰ	2後	1			1			1		
	身体障害作業療法治療学演習Ⅱ	3前	1			1					
	精神障害作業療法治療学Ⅰ	2前	1					1			
	精神障害作業療法治療学Ⅱ	2後	1					1			
精神障害作業療法治療学演習	3前	1					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	高齢者の心理	2後		2							兼1
	医学知識	1前・1後		2							兼1
	リハビリテーション概論	1前	2								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	2								兼1
	教育心理学	1後		2							兼1
	特別支援教育原論	1前		2							兼1
	小計(49科目)	-									
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前	1								兼1
	チーム医療論演習	1後	1								兼1
	内科学	1後	2								兼1
	人間発達学	1後	2								兼1
	臨床心理学	3前		2							兼1
	リハビリテーション工学	2前		2	1						兼1
	地域リハビリテーション学	3前	2						1		兼1
	小計(7科目)	-									
(作業療法学専門科目)	作業療法学概論	1前	1			1					
	基礎作業学	1前	1			1					
	解剖学Ⅰ	1前	2								兼4
	解剖学Ⅱ	1前	2								兼4
	解剖学演習	1後	1								兼4
	生理学Ⅰ	1後	2								兼4
	生理学Ⅱ	1後	2								兼4
	生理学演習	2前	1								兼3
	救急措置法演習	2後	1								兼1
	病理学概論	2前	1								兼1
	運動発達学演習	2前	1			1					
	リハビリテーション医学	2後	2								兼2
	神経内科学Ⅰ	1後	2								兼1
	神経内科学Ⅱ	2前	2								兼1
	整形外科Ⅰ	1後	2								兼1
	整形外科Ⅱ	2前	2								兼1
	小児科学	2前	1								兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1								兼1
	基礎作業学演習Ⅰ	1前	2			1		1			
	基礎作業学演習Ⅱ	1後	1			1		1			
	作業療法運動学	2前	1			2					
	作業療法運動学演習	2後	2			2					
	作業療法管理学	4後	2			2					
	作業療法評価学	1後	1			1					
	身体障害作業療法評価学	2前	1			1				1	
	精神障害作業療法評価学	2後	1					1			
	作業療法評価学演習	2後	2			2		2	1		
	身体障害作業療法治療学Ⅰ	2前	1			1				1	
	身体障害作業療法治療学Ⅱ	2後	1			1					
	身体障害作業療法治療学演習Ⅰ	2後	1			1			1		
	身体障害作業療法治療学演習Ⅱ	3前	1			1					
	精神障害作業療法治療学Ⅰ	2前	1					1			
	精神障害作業療法治療学Ⅱ	2後	1					1			
精神障害作業療法治療学演習	3前	1					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(作業療法学専門科目)	発達障害作業療法治療学	2後	1			1						
	発達障害作業療法治療学演習	3前	1			1						
	高齢者作業療法治療学	2後	1					1				
	高齢者作業療法治療学演習	3前	1					1				
	高次脳機能障害作業療法治療学	2後	1			1						
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	3前	1			1						
	職業生活支援論	3後	1			1						
	義肢装具学	3後	1			2						
	義肢装具学演習	3後	2			2						
	日常生活技術学	2前	1			1						
	日常生活技術学演習	2後	2			2						
	画像診断学	3前	2									兼3
	薬理学	2前		2								兼1
	リハビリテーション栄養学	3後		1								兼1
	地域作業療法学	3前	2					1				
	住環境整備学	3後	2			1						
	作業療法学実習Ⅰ(見学)	1後	1			3		1				
	作業療法学実習Ⅱ(地域リハビリテーション)	3前	1			4		2	1			
	作業療法学実習Ⅲ(評価)	3後	2			4		2	1			
	臨床実習前学内演習(作業療法)	3後	1			4		2	1			
	臨床実習後学内演習(作業療法)	4後	1			4		2	1			
	作業療法学総合実習Ⅰ	4前	9			4		2	1			
	作業療法学総合実習Ⅱ	4前	9			4		2	1			
	作業療法学演習ⅠA	3前	2			5		2	1			
	作業療法学演習ⅠB	3後	2			5		2	1			
	作業療法学演習Ⅱ	4後	4			5		2	1			
小計(60科目)	-											
合計(116科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目14単位以上(ただし外国語2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目110単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、作業療法士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(作業療法学専門科目)	発達障害作業療法治療学	2後	1			1						
	発達障害作業療法治療学演習	3前	1			1						
	高齢者作業療法治療学	2後	1					1				
	高齢者作業療法治療学演習	3前	1					1				
	高次脳機能障害作業療法治療学	2後	1			1						
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	3前	1			1						
	職業生活支援論	3後	1			1						
	義肢装具学	3後	1			2						
	義肢装具学演習	3後	2			2						
	日常生活技術学	2前	1			1						
	日常生活技術学演習	2後	2			2						
	画像診断学	3前	2									兼3
	薬理学	2前		2								兼1
	リハビリテーション栄養学	3後		1								兼1
	地域作業療法学	3前	2					1				
	住環境整備学	3後	2			1						
	作業療法学実習Ⅰ(見学)	1後	1			3		1				
	作業療法学実習Ⅱ(地域リハビリテーション)	3前	1			4		2	1			
	作業療法学実習Ⅲ(評価)	3後	2			4		2	1			
	臨床実習前学内演習(作業療法)	3後	1			4		2	1			
	臨床実習後学内演習(作業療法)	4後	1			4		2	1			
	作業療法学総合実習Ⅰ	4前	9			4		2	1			
	作業療法学総合実習Ⅱ	4前	9			4		2	1			
	作業療法学演習ⅠA	3前	2			5		2	1			
	作業療法学演習ⅠB	3後	2			5		2	1			
	作業療法学演習Ⅱ	4後	4			5		2	1			
小計(60科目)	-											
合計(116科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目14単位以上(ただし外国語2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目110単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、作業療法士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼9」から「兼8」に変更。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の兼任・兼担教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼3」から「兼4」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼4」から「兼5」に変更。
- ・「心理学入門」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」の兼任・兼担教員の配置を「兼3」から「兼4」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
70 科目	46 科目	0 科目	116 科目	70 科目 [0]	46 科目 [0]	0 科目 [0]	116 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{116} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	7,774.34㎡	0㎡	0㎡	7,774.34㎡				
	運動場用地	15,710.80㎡	0㎡	0㎡	15,710.80㎡				
	小 計	23,485.14㎡	0㎡	0㎡	23,485.14㎡				
	そ の 他	21,190.55㎡	0㎡	0㎡	21,190.55㎡				
	合 計	44,675.69㎡	0㎡	0㎡	44,675.69㎡				
(2) 校舎	専 用	25,004.06㎡	0㎡	0㎡	25,004.06㎡				
	(25,004.06㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(25,004.06㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	33室	13室	48室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			令和元年9月 専任助教1名を新規採用のため(2)			
	保健医療学部 理学療法学科		14 室						
	保健医療学部 作業療法学科		8 室						
	保健医療学部 言語聴覚学科		9 8 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	視聴覚資料、機械・器具、標本は学部単位での特定不能なため、大学全体の数	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					点
	冊	種	[うち外国書]	(5607)	(947)	(59)			
	保健医療学部	11,240 [1,313] (11,240 [1,313])	62 [8] (62 [8])				2 [1] (2 [1])		
計	11,240 [1,313] (11,240 [1,313])	62 [8] (62 [8])	2 [1] (2 [1])	(5607)	(947)	(59)			
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	954.5㎡		214		105,000				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	1,377.1㎡		野球場1面		テニスコート4面				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	経費の見積り等は、大学全体 なお、図書費にはデータベースの整備費(運用コスト含む)を
		教員1人当り研究費等	480千円	480千円	図書購入費	4,825千円	3,272千円	3,385千円	
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	79,134千円	30,515千円	31,732千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,780千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	一千円	一千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		大阪人間科学大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人間科学部	4	195		1695		0.91	1.12		平成13	—	
社会福祉学科	4	80	3年次0	365	学士(社会福祉学)	0.82	1.20		平成13	大阪府摂津市正雀1-4-1	令和2年定員変更(△15)
医療福祉学科 介護福祉専攻	4	—	—	120	学士(医療福祉学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
医療福祉学科 視能訓練専攻	4	40	—	160	学士(医療福祉学)	0.94	1.05		平成24	同上	
子ども保育学科	4	75	3年次0	360	学士(子ども保育学)	0.74	1.09		平成24	同上	令和2年定員変更(△20)
健康心理学科	4	—	3年次0	270	学士(心理学)	—	—		平成17	同上	令和2年学生募集停止
医療心理学科 臨床発達心理専攻	4	—	—	120	学士(医療心理学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
医療心理学科 言語聴覚専攻	4	—	—	120	学士(医療心理学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
理学療法学科	4	—	—	180	学士(理学療法学)	—	—		平成28	同上	令和2年学生募集停止
心理学部	4	90		90		1.18	1.18		令和2	—	
心理学科	4	90	3年次0	90	学士(心理学)	1.18	1.18		令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
保健医療学部	4	140		140		1.01	1.01		令和2	—	
理学療法学科	4	60	—	60	学士(理学療法学)	1.06	1.06		令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
作業療法学科	4	40	—	40	学士(作業療法学)	1.02	1.02		令和2	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	40	学士(言語聴覚学)	0.92	0.92		令和2	同上	
大学全体	4	425		1925		0.91	1.10				
大学の名称		大阪人間科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
人間科学研究科	2	10	—	20	修士(人間科学)	0.60	0.40		平成18	大阪府摂津市正雀1-4-1	
大学院全体	2	10	—	20		0.60	0.40				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 作業療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学科長)	古川 宏 (74) <令和2年4月> 博士(医学)	F A 演習 作業療法概論 基礎作業学 作業療法実習Ⅰ(見学) 日常生活技術学 日常生活技術学演習※ 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 職業生活支援論 義肢装具学※ 義肢装具学演習※ 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 作業療法管理学※ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ	専	教授(学科長)	古川 宏 (75) <令和2年4月> 博士(医学)	F A 演習 作業療法概論 基礎作業学 作業療法実習Ⅰ(見学) 日常生活技術学 日常生活技術学演習※ 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 職業生活支援論 義肢装具学※ 義肢装具学演習※ 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 作業療法管理学※ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ
専	教授	辻 薫 (60) <令和2年9月> 文学士※	対人援助演習Ⅱ※ 作業療法実習Ⅰ(見学) 基礎作業学演習Ⅱ※ 運動発達学演習 作業療法評価学演習※ 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 作業療法管理学※ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ	専	教授	辻 薫 (61) <令和2年9月> 文学士※	対人援助演習Ⅱ※ 作業療法実習Ⅰ(見学) 基礎作業学演習Ⅱ※ 運動発達学演習 作業療法評価学演習※ 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 作業療法管理学※ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ
専	教授	中川 昭夫 (69) <令和2年4月> 博士(保健学)	F A 演習 基礎作業学演習Ⅰ※ リハビリテーション工学 作業療法運動学※ 作業療法運動学演習※ 日常生活技術学演習※ 作業療法演習ⅠA 義肢装具学※ 義肢装具学演習※ 住環境整備学 作業療法演習ⅠB 作業療法演習Ⅱ	専	教授	中川 昭夫 (70) <令和2年4月> 博士(保健学)	F A 演習 基礎作業学演習Ⅰ※ リハビリテーション工学 作業療法運動学※ 作業療法運動学演習※ 日常生活技術学演習※ 作業療法演習ⅠA 義肢装具学※ 義肢装具学演習※ 住環境整備学 作業療法演習ⅠB 作業療法演習Ⅱ
専	教授	西井 正樹 (43) <令和3年4月> 修士(臨床福祉学)※	ブレ演習Ⅰ 身体障害作業療法治療学Ⅰ※ ブレ演習Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習Ⅰ※ 高次脳機能障害作業療法治療学 高次脳機能障害作業療法治療学演習 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ	専	教授	西井 正樹 (44) <令和3年4月> 修士(臨床福祉学)※	ブレ演習Ⅰ 身体障害作業療法治療学Ⅰ※ ブレ演習Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習Ⅰ※ 高次脳機能障害作業療法治療学 高次脳機能障害作業療法治療学演習 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ
専	教授	細谷 実 (62) <令和2年4月> 文学士	F A 演習 作業療法評価学 作業療法実習Ⅰ(見学) 作業療法運動学※ 身体障害作業療法評価学※ 作業療法運動学演習※ 作業療法評価学演習※ 身体障害作業療法治療学Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習Ⅱ 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ	専	教授	細谷 実 (63) <令和2年4月> 文学士	F A 演習 作業療法評価学 作業療法実習Ⅰ(見学) 作業療法運動学※ 身体障害作業療法評価学※ 作業療法運動学演習※ 作業療法評価学演習※ 身体障害作業療法治療学Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習Ⅱ 作業療法実習Ⅱ(地域リハビリテーション) 作業療法演習ⅠA 作業療法実習Ⅲ(評価) 臨床実習前学内演習(作業療法)※ 作業療法演習ⅠB 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ 臨床実習後学内演習(作業療法)※ 作業療法演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	木下 亮平 (33) <令和2年4月> 修士(保健学)	専	講師	木下 亮平 (34) <令和2年4月> 修士(保健学)
		基礎作業学演習 I ※ 対人援助演習 II ※ 基礎作業学演習 II ※ 作業療法学実習 I (見学) ブレ演習 I ブレ演習 II 高齢者作業療法治療学 地域リハビリテーション学 高齢者作業療法治療学演習 地域作業療法学 作業療法学実習 II (地域リハビリテーション) 作業療法学演習 I A 作業療法学実習 III (評価) 臨床実習前学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 I B 作業療法学総合実習 I 作業療法学総合実習 II 臨床実習後学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 II			基礎作業学演習 I ※ 対人援助演習 II ※ 基礎作業学演習 II ※ 作業療法学実習 I (見学) ブレ演習 I ブレ演習 II 高齢者作業療法治療学 地域リハビリテーション学 高齢者作業療法治療学演習 地域作業療法学 作業療法学実習 II (地域リハビリテーション) 作業療法学演習 I A 作業療法学実習 III (評価) 臨床実習前学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 I B 作業療法学総合実習 I 作業療法学総合実習 II 臨床実習後学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 II
専	講師	神志那 武 (36) <令和3年4月> 修士(保健学)	専	講師	神志那 武 (37) <令和3年4月> 修士(保健学)
		ブレ演習 I 精神障害作業療法治療学 I ブレ演習 II 作業療法評価学演習 ※ 精神障害作業療法評価学 精神障害作業療法治療学 II 精神障害作業療法治療学演習 作業療法学実習 II (地域リハビリテーション) 作業療法学演習 I A 作業療法学実習 III (評価) 臨床実習前学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 I B 作業療法学総合実習 I 作業療法学総合実習 II 臨床実習後学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 II			ブレ演習 I 精神障害作業療法治療学 I ブレ演習 II 作業療法評価学演習 ※ 精神障害作業療法評価学 精神障害作業療法治療学 II 精神障害作業療法治療学演習 作業療法学実習 II (地域リハビリテーション) 作業療法学演習 I A 作業療法学実習 III (評価) 臨床実習前学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 I B 作業療法学総合実習 I 作業療法学総合実習 II 臨床実習後学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 II
専	助教	中川 友紀 (30) <令和3年4月> 修士(保健学)	専	助教	中川 友紀 (31) <令和3年4月> 修士(保健学)
		身体障害作業療法評価学 ※ 身体障害作業療法治療学 I ※ 身体障害作業療法治療学演習 I ※ 作業療法学実習 II (地域リハビリテーション) 作業療法学演習 I A 作業療法学実習 III (評価) 臨床実習前学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 I B 作業療法学総合実習 I 作業療法学総合実習 II 臨床実習後学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 II			身体障害作業療法評価学 ※ 身体障害作業療法治療学 I ※ 身体障害作業療法治療学演習 I ※ 作業療法学実習 II (地域リハビリテーション) 作業療法学演習 I A 作業療法学実習 III (評価) 臨床実習前学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 I B 作業療法学総合実習 I 作業療法学総合実習 II 臨床実習後学内演習 (作業療法) ※ 作業療法学演習 II
兼任	教授(学長)	田中 保和 (68) <令和2年4月> 工学修士	兼任	教授(学長)	田中 保和 (69) <令和2年4月> 工学修士
		対人援助演習 II ※			対人援助演習 II ※
兼任	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (67) <令和2年4月> 医学博士	兼任	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (68) <令和2年4月> 医学博士
		キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 人間関係Ⅰ			キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 人間関係Ⅰ 内科学Ⅰ 神経内科学Ⅰ
兼任	教授	井上 千一 (64) <令和2年4月> 商学修士			
		情報処理演習 I 情報処理演習 II			
兼任	教授	加藤 敬徳 (65) <令和2年4月> 学士(医学)	兼任	教授	加藤 敬徳 (66) <令和2年4月> 学士(医学)
		精神医学Ⅰ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 精神医学Ⅱ			精神医学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 精神医学Ⅱ
兼任	教授	久家 義之 (63) <令和2年4月> 学士(医学)	兼任	教授	久家 義之 (64) <令和2年4月> 学士(医学)
		医学知識			医学知識
			兼任	教授	阪本 英二 (56) <令和2年4月> 医学博士
					解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
兼任	教授	佐光 健 (47) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	教授	佐光 健 (48) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)
		社会問題論			社会問題論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	杉生 真一 (45) <令和2年4月> 博士(歯学)	兼任	教授	杉生 真一 (46) <令和2年4月> 博士(歯学)
		解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学演習			解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学演習
兼任	教授	武田 卓也 (44) <令和2年4月> 博士(社会学)	兼任	教授	武田 卓也 (45) <令和2年4月> 博士(社会学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	教授	鶴野 隆浩 (57) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	鶴野 隆浩 (58) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		対人援助演習Ⅱ※ 社会福祉Ⅰ			対人援助演習Ⅱ※ 社会福祉Ⅰ
			兼任	教授	羽根 隆 (60) <令和2年4月> 文学士
					オーストラリア語Ⅰ(英語) オーストラリア語Ⅱ(英語)
兼任	教授	日上 耕司 (59) <令和2年4月> 博士(心理学)	兼任	教授	日上 耕司 (60) <令和2年4月> 博士(心理学)
		特別支援教育原論			特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (61) <令和2年4月> 教育学士	兼任	教授	宮崎 佐利 (62) <令和2年4月> 教育学士
		日本語基礎 文章表現法			日本語基礎 文章表現法
兼任	教授	山川 友康 (72) <令和2年4月> 修士(社会学)	兼任	教授	山川 友康 (73) <令和2年4月> 修士(社会学)
		リハビリテーション概論 人間発達学			リハビリテーション概論 人間発達学
兼任	教授	山野 薫 (54) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	兼任	教授	山野 薫 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)
		医療安全管理学			医療安全管理学
兼任	教授	弓岡 光徳 (65) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	弓岡 光徳 (66) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		チーム医療演習			チーム医療演習
兼任	准教授	東 千冬 (57) <令和2年4月> 文学修士	兼任	准教授	東 千冬 (58) <令和2年4月> 文学修士
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	城越 幸一 (56) <令和2年4月> 体育学士	兼任	准教授	城越 幸一 (57) <令和2年4月> 体育学士
		対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション			対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスプロモーション
兼任	准教授	秦 康宏 (55) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	准教授	秦 康宏 (56) <令和2年4月> 修士(学術)
		多文化共生			多文化共生
兼任	准教授	榎田 浩三 (48) <令和2年4月> 医科学修士			
		対人援助演習Ⅱ※	兼任	講師	中山 奈々美 (37) <令和2年4月> 医学博士
					対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	丸山 亜実 (48) <令和2年4月> 社会学士	兼任	准教授	丸山 亜実 (49) <令和2年4月> 社会学士
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	奥村 裕 (45) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	奥村 裕 (46) <令和2年4月> 修士(保健学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	金澤 佑治 (33) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	金澤 佑治 (34) <令和2年4月> 博士(医学)
		医療英語 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学演習			医療英語 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学演習
兼任	助教	筒井 優介 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学)	兼任	助教	筒井 優介 (41) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	青木 弥穂 (43) <令和2年4月> 学士(理学)	兼任	助教	青木 弥穂 (44) <令和2年4月> 学士(理学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	助教	岡 孝夫 (45) <令和2年4月> 心理学士 対人援助演習Ⅱ※	岡 孝夫 (46) <令和2年4月> 心理学士 対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	田中 雅侑 (31) <令和2年4月> 博士(保健学) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学演習 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学演習	
兼任	助教	弓岡 まみ (32) <令和2年4月> 修士(健康福祉学) 対人援助演習Ⅱ※	弓岡 まみ (33) <令和2年4月> 修士(健康福祉学) 対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	釣井 達也 (34) <令和2年4月> 博士(理学) 対人援助演習Ⅱ※	
			兼任 講師 中村 かおり (48) <令和2年4月> 修士(臨床教育学) 対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	赤田 知華子 (39) <令和2年4月> 修士(人間科学) 対人援助演習Ⅰ ジェンダー論	兼任 講師 赤田 知華子 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学) 対人援助演習Ⅰ ジェンダー論 人権と倫理
兼任	講師	穂久 宗徳 (48) <令和2年4月> 学士(農学) 対人援助演習Ⅰ	兼任 講師 穂久 宗徳 (49) <令和2年4月> 学士(農学) 対人援助演習Ⅰ
			兼任 講師 上田 智巳 <令和2年4月> (45) <令和2年4月> 修士(文学) 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	岡村 圭介 (32) <令和4年4月> 学士(医学) 画像診断学※	兼任 講師 岡村 圭介 (33) <令和4年4月> 学士(医学) 画像診断学※
兼任	講師	伊藤 僚祐 (27) <令和2年4月> 修士(理学) 生物学	兼任 講師 伊藤 僚祐 (28) <令和2年4月> 修士(理学) 生物学
兼任	講師	植田 瑞穂 (29) <令和2年4月> 心理学修士 対人援助演習Ⅰ	兼任 講師 植田 瑞穂 (30) <令和2年4月> 心理学修士 対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	遠藤 たまえ (58) <令和2年4月> 修士(人間科学) 対人援助演習Ⅰ	兼任 講師 遠藤 たまえ (59) <令和2年4月> 修士(人間科学) 対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	沖塩 尚孝 (44) <令和2年4月> 修士(文学) リハビリテーション医学※ 画像診断学※	兼任 講師 沖塩 尚孝 (45) <令和2年4月> 修士(文学) リハビリテーション医学※ 画像診断学※
兼任	講師	奥村 命子 (54) <令和2年4月> 社会学士 ソーシャルマナーⅠ ソーシャルマナーⅡ	兼任 講師 奥村 命子 (55) <令和2年4月> 社会学士 ソーシャルマナーⅠ ソーシャルマナーⅡ
兼任	講師	木内 真弘 (57) <令和2年4月> 修士(学術) スポーツ実技Ⅰ	兼任 講師 木内 真弘 (58) <令和2年4月> 修士(学術) スポーツ実技Ⅰ
			兼任 講師 木谷 織信 (67) <令和2年4月> 体育学士 スポーツ実技Ⅰ
兼任	講師	木戸口 恭子 (61) <令和2年4月> 文学士 視覚障害者への理解と点字	兼任 講師 木戸口 恭子 (62) <令和2年4月> 文学士 視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (29) <令和2年4月> 修士(人間科学) 心理学入門	兼任 講師 金 波 (30) <令和2年4月> 修士(人間科学) 心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (51) <令和2年4月> 高等学校卒 スポーツ実技Ⅱ	兼任 講師 藏内 茂 (52) <令和2年4月> 高等学校卒 スポーツ実技Ⅱ
兼任	講師	鴻上 圭太 (45) <令和2年4月> 修士(社会学) 対人援助演習Ⅰ	兼任 講師 鴻上 圭太 (46) <令和2年4月> 修士(社会学) 対人援助演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	講師	坂田 隆志 (64) <令和3年4月> 工学士	兼任 講師 齋藤 佳子 (29) <令和2年4月> 修士(文学)
		救急措置法演習	日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	佐藤 泰子 (59) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)	兼任 講師 坂田 隆志 (65) <令和3年4月> 工学士
		医療倫理	救急措置法演習
兼任	講師	島村 敏生 (65) <令和2年4月> 文学士	兼任 講師 佐藤 泰子 (60) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)
		オラクル・クソツツ(英語) I オラクル・クソツツ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II	医療倫理
兼任	講師	白井 三千代 (60) <令和2年4月> 修士(国文学) ・修士(社会学)	兼任 講師 島村 敏生 (66) <令和2年4月> 文学士
		対人援助演習 I	オラクル・クソツツ(英語) I オラクル・クソツツ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	高木 恭子 (47) <令和3年4月> 修士(工学)	
		人間工学	
兼任	講師	田口 周 (29) <令和4年4月> 学士(医学)	兼任 講師 高木 恭子 (48) <令和3年4月> 修士(工学)
		画像診断学※	人間工学
兼任	講師	堤 聖月 (27) <令和3年4月> 修士(心理学)	兼任 講師 田口 周 (30) <令和4年4月> 学士(医学)
		発達心理学	画像診断学※
兼任	講師	水流 寛二 (52) <令和2年4月> 体育学士	兼任 講師 堤 聖月 (28) <令和3年4月> 修士(心理学)
		対人援助演習 I	発達心理学
兼任	講師	田 麗 (60) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任 講師 水流 寛二 (53) <令和2年4月> 体育学士
		内科学 病理学概論 小児科学	対人援助演習 I
兼任	講師	豊島(山本) 彩 (30) <令和3年4月> 博士(人間科学)	兼任 講師 田 麗 (60) <令和2年4月> 博士(医学)
		高齢者の心理	内科学 病理学概論 小児科学
兼任	講師	中路 曜子 (33) <令和3年4月> 修士(心理学)	兼任 講師 豊島(山本) 彩 (31) <令和3年4月> 博士(人間科学)
		障害者の心理	高齢者の心理
兼任	講師	中西(荒木) 美穂 (50) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任 講師 中路 曜子 (34) <令和3年4月> 修士(心理学)
		対人援助演習 I	障害者の心理
			兼任 講師 中西(荒木) 美穂 (51) <令和2年4月> 修士(文学)
			対人援助演習 I
兼任	講師	西沢 敏美 (64) <令和2年4月> 法学士	兼任 講師 中村 泰剛 (49) <令和2年4月> 専門学校卒
		キャリアデザイン I キャリアデザイン II	情報処理演習 I
兼任	講師	長谷 公隆 (59) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任 講師 西沢 敏美 (65) <令和2年4月> 法学士
		リハビリテーション医学※	キャリアデザイン I キャリアデザイン II
兼任	講師	林 可奈子 (36) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)	兼任 講師 長谷 公隆 (60) <令和2年4月> 博士(医学)
		オラクル・クソツツ(英語) I オラクル・クソツツ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II	リハビリテーション医学※
兼任	講師	平井 崇晴 (54) <令和2年4月> 理学博士	兼任 講師 林 可奈子 (37) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)
		数学の原理 社会人基礎学力(数学)	オラクル・クソツツ(英語) I オラクル・クソツツ(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
			兼任 講師 後藤田 洋介 (27) <令和2年4月> 修士(教育学)
			数学の原理 社会人基礎学力(数学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	平柳 行雄 (68) <令和2年4月> 商学士・Master of Arts (米国)	兼任	講師	平柳 行雄 (69) <令和2年4月> 商学士・Master of Arts (米国)
		オームワークショップ (英語) I オームワークショップ (英語) II			オームワークショップ (英語) I オームワークショップ (英語) II
兼任	講師	藤井 涉 (40) <令和2年4月> 修士 (社会福祉学)			
		人権と倫理			
兼任	講師	藤村 邦博 (68) <令和2年4月> 文学修士	兼任	講師	藤村 邦博 (69) <令和2年4月> 文学修士
		教育心理学			教育心理学 心理学入門
兼任	講師	彭 徳子 (48) <令和5年4月> 博士 (医学)	兼任	講師	彭 徳子 (49) <令和5年4月> 博士 (医学)
		生化学 免疫学			生化学 免疫学
兼任	講師	細谷 周史 (44) <令和3年4月> 修士 (心理学)	兼任	講師	細谷 周史 (45) <令和3年4月> 修士 (心理学)
		生活と統計			生活と統計
兼任	講師	石原 昂侑 (30) <令和2年4月> 学士 (社会福祉学)	兼任	講師	石原 昂侑 (31) <令和2年4月> 学士 (社会福祉学)
		対人援助演習 I			対人援助演習 I
兼任	講師	藤本 恵子 (55) <令和2年4月> 修士 (学術)	兼任	講師	藤本 恵子 (56) <令和2年4月> 修士 (学術)
		オームワークショップ (英語) I オームワークショップ (英語) II			オームワークショップ (英語) I オームワークショップ (英語) II
兼任	講師	山岡 伸行 (60) <令和2年4月> 医学博士			
		整形外科学 I 整形外科学 II			
			兼任	講師	村尾 浩 (57) <令和2年4月> 博士 (医学)
					整形外科学 I 整形外科学 II
兼任	講師	山口 信子 (58) <令和2年4月> 高等学校卒	兼任	講師	山口 信子 (59) <令和2年4月> 高等学校卒
		聴覚障害者への理解と手話			聴覚障害者への理解と手話
兼任	講師	山口 芳香 (55) <令和3年4月> 博士 (理学)	兼任	講師	山口 芳香 (56) <令和3年4月> 博士 (理学)
		薬理学			薬理学
兼任	講師	柴田 (吉崎) 和子 (50) <令和2年4月> 社会学修士	兼任	講師	柴田 (吉崎) 和子 (51) <令和2年4月> 社会学修士
		社会学 社会調査論			社会学 社会調査論
兼任	講師	吉田 育弘 (51) <令和2年4月> 経済学士	兼任	講師	吉田 育弘 (52) <令和2年4月> 経済学士
		簿記会計			簿記会計
兼任	講師	吉田 美智子 (62) <令和2年4月> 体育学士	兼任	講師	吉田 美智子 (63) <令和2年4月> 体育学士
		スポーツ実技 I スポーツ実技 II			スポーツ実技 I スポーツ実技 II
兼任	講師	石川 眞理子 (64) <令和4年4月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	石川 眞理子 (65) <令和4年4月> 修士 (人間科学)
		臨床心理学			臨床心理学
兼任	講師	島田 点心 (42) <令和4年4月> 栄養学学士	兼任	講師	島田 点心 (43) <令和4年4月> 栄養学学士
		リハビリテーション栄養学			リハビリテーション栄養学
			兼任	講師	田中 雅情 (32) <令和2年4月> 博士 (保健学)
					解剖学 I 解剖学 II 解剖学演習 生理学 I 生理学 II

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「内科学」の「田麗兼任講師」を「山岸正和兼任教授」に変更。
- ・「神経内科学Ⅰ」の「加藤敬徳兼任教授」を「山岸正和兼任教授」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅰ」の「井上千一兼任教授」を「中村泰剛兼任講師」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅱ」の「井上千一兼任教授」を「上田智己兼任講師」に変更。
- ・「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」の担当教員に「阪本英二兼任教授」を追加。
- ・「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」の「田中雅侑兼助教」を「田中雅侑兼任講師」に変更。
- ・「オーラルワークショップ（英語）Ⅰ」「オーラルワークショップ（英語）Ⅱ」の担当教員に「羽根隆兼任教授」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の「榎田浩三兼任准教授」を「中山奈々美兼任講師」に、「釣井達也兼助教」を「中村かおり兼任講師」に変更。
- ・「人権と倫理」の「藤井渉兼任講師」を「赤田知華子兼任講師」に変更。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の担当教員に「木谷織信兼任講師」を追加。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の担当教員に「斎藤佳子兼任講師」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の担当教員から「白井三千代兼任講師」を退職により削除。
- ・「数学の原理」「社会人基礎学力（数学）」の「平井崇晴兼任講師」を「後藤洋介兼任講師」に変更。
- ・「心理学入門」の担当教員に「藤村邦博兼任講師」を追加。
- ・「整形外科Ⅰ」の「山岡伸行兼任講師」を「村尾浩兼任講師」に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	0	2	1	8	0	3	0	1	0	4	0
(4)	(0)	(1)	(0)	(5)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
5	0	2	1	8	0	5	0	2	1	8	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{4} = \boxed{50} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。 遵守事項	本学部の教育研究の水準を維持向上させるために、教員組織編成の将来構想を明確にした。また、今後の採用計画の方針についても策定した。	履行中 本学部の専任教員の内、本学の定める「教育職員の定年（65歳）」を超えるものが完成年度において9名となる。この9名の教授する科目分野を中心とした若手教員の採用について積極的に行う予定である。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 作業療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では開学以来「FD委員会」を設置し、FD活動を推進してきた。委員長は教学部長であり、各学科の代表委員と幹部事務職員でその活動を行っている。なお、平成29年度からはSDの義務化に対応するために「FD委員会」と「SD委員会」を統合し、「FD・SD委員会」として活動を行っている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

「FD・SD委員会」は毎月1回の定例委員会を開催している。参加メンバーは、教学部長を委員長とし、各学科から教員が1名ずつ委員となっている。定例委員会の教員の参加率は100%に近い。また、年に1回以上は委員会主催の「FD・SD研修会」を全教職員対象に実施している。令和元年度は令和2年3月5日に「学生の理解を深める工夫について」というテーマで「授業改善に役立つ動画教材の紹介」と「アクティブ・ラーニング はじめの一歩」などの講演を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から集合形式の研修会は中止とした。なお、それに代わる研修会として、関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材「シリーズ 大学の授業を極める（1）講義法」を各自が視聴するという形式で実施した。

c 委員会の審議事項等

令和元年度の「FD・SD委員会」は、①「学生による授業評価」の実施について、②FD・SD研修会について、③新任教員オリエンテーションの開催について、④ピアレビュー・グループ活動について、⑤学外の各種FD研修会や他大学の取り組み研究などについて、実施の準備から実施結果の反省まで討議・審議を行った。

② 実施状況

a 実施内容

- ・新任教員オリエンテーション研修会(4月)
- ・FD・SD研修会(3月)
- ・学生による授業評価(7月、1月)
- ・教員相互による授業参観月間の実施(7月～12月)

b 実施方法

・「新任教員オリエンテーション研修会」は、平成26年度以降毎年4月に実施し、新任教員が参加している。
・「FD・SD研修会」は、令和元年度は令和2年3月5日に「学生の理解を深める工夫について」というテーマで実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から集合形式の研修会は中止とした。なお、それに代わる研修会として、関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材「シリーズ 大学の授業を極める（1）講義法」を各自が視聴するという形式で実施した。
・「学生による授業評価」は、前期と後期にほぼすべての科目について「アンケート用紙への自記式」により実施し、その結果は学生と教員に公開している。
・「教員相互による授業参観」は、学科を超えたペアリングで実施し、教員同士のピア・レビュー活動として定着している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・「新任教員オリエンテーション研修会」は、平成31年度は4名全員が、令和2年度は10名全員が参加した。
- ・「FD・SD研修会」は集合形式の研修会は中止としたが、62名の教員が「動画教材」の視聴研修を受講した。
- ・「学生による授業評価」では、非常勤も含め9割以上の教員が実施した。
- ・「教員相互の授業参観」では、ほぼ全ての専任教員において実施された。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

年2回実施している学生による授業評価は定着している。学生にフィードバックするとともに、教員自身の自分の授業を見つめてもらう目的で、リフレクションペーパーを提出してもらっている。

また令和元年度も教員同士の「ピアレビュー・グループ活動（教員相互の授業参観）」について取り組み、令和元年7月～12月にかけてほぼ全ての専任教員において実施され、事後の報告書も全教員から提出された。

さらに、平成25年度から積極運用を開始した「学修ポートフォリオ」の活用についてもその活用状況調査を実施し、全学本格運用に向けて取り組みを推進中である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生による授業評価は、平成16年度より、毎年度2回（前期と後期）に実施している。その結果は、当該教員にフィードバックされ、授業改善に役立てることとしている。平成17年度より、専任教員には義務化された。また、非常勤の教員が担当する授業の学生による授業評価の実施は、当該教員の意志に任されていたが、平成22年度より自己点検・評価委員会より積極的実施を依頼し、9割以上の非常勤教員の授業において実施されている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果の利用については、平成16年から19年までは当該教員にのみ返却されていたが、平成20年度より、学部長、各学科長が閲覧することとした。平成24年度以降は毎年、学内SNSであるユニバーサルパスポート上で学生及び教職員にも公開している。また、平成30年度後期からはユニバーサルパスポート上での公開に加えて、大学ホームページでも全体の集計結果を公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「共生社会」の実現を目指す本学の教育において、保健医療学部は「人間の日常生活の保障」を目指すべき理念とする。

保健医療学部では、学士課程において理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成教育を実施し、国家資格取得を目指すとともに、対人援助の職に就くために必須となる倫理観からコミュニケーション能力まで包含した全人教育を実施する。

保健医療の知識や、高齢者、障がい児・者への理解をベースに、人間のからだのしくみをはじめ、地域社会におけるリハビリテーションの在り方に至る学びを通し、小児から高齢者まで、幅広い層の対人援助に対応できる実践能力を備えた人間味豊かな理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の育成を目指すと共に、保健医療、福祉領域の発展に貢献していくことを教育研究上の目的とする。

令和2年度に教育活動を開始した本学部においては、その目的達成の緒に就いたところである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 令和3年10月公表予定

b 公表方法

- ・ 大学ホームページで公開予定 (<http://www.ohs.ac.jp/>)

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成29年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）による大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準に適合しているとの認定」を得た。次回は令和6年度を計画している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 薫英学園

(2) 大学名

大阪人間科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒566-8501
大阪府摂津市正雀1丁目4番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ ミチオ) 小川 道雄 (昭和60年10月)		
学長	(タナカ ヤスカズ) 田中 保和 (平成29年4月)		
学部長	(ヤマギシ マサカズ) 山岸 正和 (令和2年4月)		
学科長等	(カワイ ヒサカズ) 川井 久和 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 言語聴覚学科 学士 (言語聴覚学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	40人	— 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	40 (—) [—]	— (—) [—]	0.92倍	一倍								
志願者数	— (—) [—]	89 (—) [—]	— (—) [—]										
受験者数	— (—) [—]	81 (—) [—]	— (—) [—]										
合格者数	— (—) [—]	58 (—) [—]	— (—) [—]										
B 入学者数	— (—) [—]	37 (—) [—]	— (—) [—]										
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		0.92				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	— [—] (—)	37 [—] (—)	— [—] (—)									
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)								
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次					/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	37 [—] (—)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
平成29年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
平成30年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	0人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	37人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{37} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	FA演習	1前	2				1		3		
	対人援助演習Ⅰ	1前	1								兼9
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1			2		兼12
	人権と倫理	1後	2				1				兼1
	人間関係Ⅰ	1前・1後	2				1				
	医療倫理	1後		2							兼1
	日本語基礎	1前		2							兼1
	文章表現法	1後		2							兼1
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2							兼1
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2							兼1
	キャリアデザインⅠ	1前		2							兼1
	キャリアデザインⅡ	2後		2							兼1
	社会学	1前	2								兼1
	生活と統計	2前	2								兼1
	社会調査論	1後		2							兼1
	数学の原理	1前		2							兼1
	生物学	1後	2								兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2							兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後		2							兼1
	多文化共生	1後		2							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1							兼1
	情報処理演習Ⅱ	1前・1後		1							兼1
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2							兼3
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2							兼2
	ヘルスプロモーション	1前		1							兼1
	オーラルワークショップ(英語)Ⅰ	1前		1							兼4
	オーラルワークショップ(英語)Ⅱ	1後		1							兼4
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1							兼2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1							兼2
	医療英語	2後		1							兼1
	簿記会計	1後		2							兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2							兼1
	キャリアデザインⅢ	3後		2		1					
	キャリアデザインⅣ	3後		2		1					
プレ演習Ⅰ	2前	2				1		3			
プレ演習Ⅱ	2後	2				1		3			
社会福祉Ⅰ	1前	2								兼1	
社会問題論	1後	2								兼1	
ジェンダー論	2前		2							兼1	
人間工学	2後		2							兼1	
心理学入門	1前		2							兼1	
発達心理学	2前	2								兼1	
障害者の心理	2後		2							兼1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	FA演習	1前	2				1		3		
	対人援助演習Ⅰ	1前	1								兼8
	対人援助演習Ⅱ	1後	1			1			2		兼12
	人権と倫理	1後	2				1				兼1
	人間関係Ⅰ	1前・1後	2				1				
	医療倫理	1後		2							兼1
	日本語基礎	1前		2							兼2
	文章表現法	1後		2							兼2
	ソーシャルマナーⅠ	1前		2							兼1
	ソーシャルマナーⅡ	1後		2							兼1
	キャリアデザインⅠ	1前		2							兼1
	キャリアデザインⅡ	2後		2							兼1
	社会学	1前	2								兼1
	生活と統計	2前	2								兼1
	社会調査論	1後		2							兼1
	数学の原理	1前		2							兼1
	生物学	1後	2								兼1
	聴覚障害者への理解と手話	1前		2							兼1
	視覚障害者への理解と点字	1後		2							兼1
	多文化共生	1後		2							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1							兼1
	情報処理演習Ⅱ	1後		1							兼1
	スポーツ実技Ⅰ	1通		2							兼4
	スポーツ実技Ⅱ	1通		2							兼2
	ヘルスプロモーション	1前		1							兼1
	オーラルワークショップ(英語)Ⅰ	1前		1							兼5
	オーラルワークショップ(英語)Ⅱ	1後		1							兼5
	コミュニケーション(英語)Ⅰ	2前		1							兼2
	コミュニケーション(英語)Ⅱ	2後		1							兼2
	医療英語	2後		1							兼1
	簿記会計	1後		2							兼1
	社会人基礎学力(数学)	1前・1後		2							兼1
	キャリアデザインⅢ	3後		2		1					
	キャリアデザインⅣ	3後		2		1					
プレ演習Ⅰ	2前	2				1		3			
プレ演習Ⅱ	2後	2				1		3			
社会福祉Ⅰ	1前	2								兼1	
社会問題論	1後	2								兼1	
ジェンダー論	2前		2							兼1	
人間工学	2後		2							兼1	
心理学入門	1前		2							兼2	
発達心理学	2前	2								兼1	
障害者の心理	2後		2							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	高齢者の心理	2後		2								兼1
	医学知識	1前・1後		2								兼1
	リハビリテーション概論	1前		2								兼1
	精神医学 I	2前	2			1						兼1
	教育心理学	1後		2								兼1
	特別支援教育原論	1前		2								兼1
	小計(49科目)	-										
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前		1								兼1
	チーム医療論演習	1後		1								兼1
	内科学	1後	2									兼1
	人間発達学	1後		2								兼1
	臨床心理学	3前	2									兼1
	リハビリテーション工学	2前		2								兼1
	地域リハビリテーション学	3前		2								兼1
小計(7科目)	-											
(言語聴覚学専攻)	基礎医学 I (医学総論・病理学)	1前	2			1						
	基礎医学 II (解剖学・生理学)	1前	2			1						
	臨床医学 I (リハビリテーション医学)	1後	2			1						
	臨床医学 II (臨床神経学)	1前	2			1						
	臨床医学 III (小児科学)	1後	2									兼1
	臨床医学 IV (耳鼻咽喉科学・聴覚医学)	1前	2			1						
	臨床医学 V (臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	1後	2			1						
	心理測定法	2後	2									兼1
	聴覚心理学	2後	2									兼1
	言語発達学	1後	2					1				
	学習心理学	2前	2									兼1
	言語学	1後	2									兼1
	音声学	1前	2									兼1
	音響学	1後	2									兼1
	言語聴覚障害学	1前	2			1						
	言語聴覚障害学演習	4前	1			1	1		3			
	言語聴覚障害診断学	1後	2						1			
	失語症 I	2前	2						1			
	失語症 II	2後	2						1			
	高次脳機能障害学 I	2前	2				1					
	高次脳機能障害学 II	2後	2				1					
	高次脳機能障害学演習	3前	1				1					
	言語発達障害学 I	2前	2						1			
	言語発達障害学 II	2後	2						1			
	発声発語障害学 I (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2前	2				1					
	発声発語障害学 II (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2後	2				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	高齢者の心理	2後		2								兼1
	医学知識	1前・1後		2								兼1
	リハビリテーション概論	1前		2								兼1
	精神医学 I	2前	2			1						兼1
	教育心理学	1後		2								兼1
	特別支援教育原論	1前		2								兼1
	小計(49科目)	-										
(専門共通科目)	医療安全管理学	1前		1								兼1
	チーム医療論演習	1後		1								兼1
	内科学	1後	2				1					兼1
	人間発達学	1後		2								兼1
	臨床心理学	3前	2									兼1
	リハビリテーション工学	2前		2								兼1
	地域リハビリテーション学	3前		2								兼1
小計(7科目)	-											
(言語聴覚学専攻)	基礎医学 I (医学総論・病理学)	1前	2									兼1
	基礎医学 II (解剖学・生理学)	1前	2									兼1
	臨床医学 I (リハビリテーション医学)	1後	2					1				
	臨床医学 II (臨床神経学)	1前	2					1				
	臨床医学 III (小児科学)	1後	2					1				
	臨床医学 IV (耳鼻咽喉科学・聴覚医学)	1前	2									兼1
	臨床医学 V (臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)	1後	2									兼1
	心理測定法	2後	2									兼1
	聴覚心理学	2後	2									兼1
	言語発達学	1前	2							1		
	学習心理学	2前	2									兼1
	言語学	1後	2								1	
	音声学	1前	2								1	
	音響学	1後	2								1	
	言語聴覚障害学	1後	2					1				
	言語聴覚障害学演習	4前	1					1	1		3	
	言語聴覚障害診断学	1後	2								1	
	失語症 I	2前	2								1	
	失語症 II	2後	2								1	
	高次脳機能障害学 I	2前	2						1			
	高次脳機能障害学 II	2後	2						1			
	高次脳機能障害学演習	3前	1						1			
	言語発達障害学 I	2前	2								1	
	言語発達障害学 II	2後	2								1	
	発声発語障害学 I (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2前	2							1		
	発声発語障害学 II (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	2後	2							1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(言語聴覚学専門科目)	発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害・機能性構音障害)	2後	2						1			
	発声発語障害学演習 (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	3前	1				1		1			
	嚥下障害Ⅰ	2前	2			1						
	嚥下障害Ⅱ	2後	2			1						
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2						1			
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2						1			
	聴覚障害学演習(含む聴力検査法)	3前	1						1			
	補聴器・人工内耳	3前	2						1			
	言語聴覚特別演習Ⅰ	3後	1			1	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅱ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅲ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅳ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚学見学実習	2前	1			1	1		3			
	言語聴覚学実習Ⅰ	3後	5			1	1		3			
	言語聴覚学実習Ⅱ	4前	6			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅰ	3通	4			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅱ	4通	4			1	1		3			
小計(43科目)	-											
合計(99科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目32単位以上(ただし外国語4単位、健康体育2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目92単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、言語聴覚士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(言語聴覚学専門科目)	発声発語障害学Ⅲ (器質性構音障害・機能性構音障害)	2後	2						1			
	発声発語障害学演習 (運動障害性構音障害・音声障害・吃音)	3前	1				1		1			
	嚥下障害Ⅰ	2前	2			1						
	嚥下障害Ⅱ	2後	2			1						
	聴覚障害学Ⅰ	2前	2						1			
	聴覚障害学Ⅱ	2後	2						1			
	聴覚障害学演習(含む聴力検査法)	3前	1						1			
	補聴器・人工内耳	3前	2						1			
	言語聴覚特別演習Ⅰ	3後	1			1	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅱ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅲ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚特別演習Ⅳ	4後	1			2	1		3			
	言語聴覚学見学実習	2前	1			1	1		3			
	言語聴覚学実習Ⅰ	3後	5			1	1		3			
	言語聴覚学実習Ⅱ	4前	6			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅰ	3通	4			1	1		3			
	言語聴覚学演習Ⅱ	4通	4			1	1		3			
小計(43科目)	-											
合計(99科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
卒業必修科目を含む基礎科目32単位以上(ただし外国語4単位、健康体育2単位を含む。)、卒業必修科目を含む専門科目92単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。なお、言語聴覚士国家試験受験資格取得を卒業要件とする。 【履修科目の登録の上限】48単位(年間:ただし、集中講義等は除く、また成績優秀者については別途8単位の履修を可とする)												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「対人援助演習Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼9」から「兼8」に変更。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の兼任・兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「情報処理演習Ⅱ」の配当年次を「1前・1後」から「1後」に変更。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼3」から「兼4」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の兼任教員の配置を「兼4」から「兼5」に変更。
- ・「心理学入門」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「内科学」の教員の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・「基礎医学Ⅰ（医学総論・病理学）」「基礎医学Ⅱ（解剖学・生理学）」の教員の配置を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・「臨床医学Ⅲ（小児科学）」の教員の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・「臨床医学Ⅳ（耳鼻咽喉科学・聴覚医学）」「臨床医学Ⅴ（臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学）」の教員の配置を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・「言語学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・「言語学」「音声学」「音響学」の教員の配置を「兼1」から「助教1」に変更。
- ・「言語聴覚障害学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
59 科目	40 科目	0 科目	99 科目	59 科目 [0]	40 科目 [0]	0 科目 [0]	99 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{99} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考								
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計									
	校舎敷地	7,774.34㎡	0㎡	0㎡	7,774.34㎡									
	運動場用地	15,710.80㎡	0㎡	0㎡	15,710.80㎡									
	小 計	23,485.14㎡	0㎡	0㎡	23,485.14㎡									
	そ の 他	21,190.55㎡	0㎡	0㎡	21,190.55㎡									
	合 計	44,675.69㎡	0㎡	0㎡	44,675.69㎡									
(2) 校舎	専 用	25,004.06㎡	0㎡	0㎡	25,004.06㎡									
	(25,004.06㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(25,004.06㎡)									
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体								
	33室	13室	48室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)									
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			令和元年9月 専任助教1名を新規採用のため(2)								
	保健医療学部 理学療法学科		14 室											
	保健医療学部 作業療法学科		8 室											
	保健医療学部 言語聴覚学科		9 8 室											
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	点	点	点	視聴覚資料、機械・器具、標本は学部単位での特定不能なため、大学全体の数			
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル								点	点	点
		冊	種	[うち外国書]										
		保健医療学部	11,240 [1,313]	62 [8]										
計	11,240 [1,313]	62 [8]	2 [1]	5607	947	59								
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体							
	954.5㎡		214		105,000									
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体							
	1,377.1㎡		野球場1面		テニスコート4面									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	経費の見積り等は、大学全体 なお、図書費にはデータベースの整備費(運用コスト含む)を					
		教員1人当り研究費等	480千円	480千円	図書購入費	4,825千円	3,272千円	3,385千円						
		共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	79,134千円	30,515千円	31,732千円						
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次							
	1,780千円	1,580千円	1,580千円	1,580千円	一千円	一千円								
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入 等												

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		大阪人間科学大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人間科学部	4	195		1695		0.91	1.12		平成13	—	
社会福祉学科	4	80	3年次0	365	学士(社会福祉学)	0.82	1.20		平成13	大阪府摂津市正雀1-4-1	令和2年定員変更(△15)
医療福祉学科 介護福祉専攻	4	—	—	120	学士(医療福祉学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
医療福祉学科 視能訓練専攻	4	40	—	160	学士(医療福祉学)	0.94	1.05		平成24	同上	
子ども保育学科	4	75	3年次0	360	学士(子ども保育学)	0.74	1.09		平成24	同上	令和2年定員変更(△20)
健康心理学科	4	—	3年次0	270	学士(心理学)	—	—		平成17	同上	令和2年学生募集停止
医療心理学科 臨床発達心理専攻	4	—	—	120	学士(医療心理学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
医療心理学科 言語聴覚専攻	4	—	—	120	学士(医療心理学)	—	—		平成24	同上	令和2年学生募集停止
理学療法学科	4	—	—	180	学士(理学療法学)	—	—		平成28	同上	令和2年学生募集停止
心理学部	4	90		90		1.18	1.18		令和2	—	
心理学科	4	90	3年次0	90	学士(心理学)	1.18	1.18		令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
保健医療学部	4	140		140		1.01	1.01		令和2	—	
理学療法学科	4	60	—	60	学士(理学療法学)	1.06	1.06		令和2	大阪府摂津市正雀1-4-1	
作業療法学科	4	40	—	40	学士(作業療法学)	1.02	1.02		令和2	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	40	学士(言語聴覚学)	0.92	0.92		令和2	同上	
大学全体	4	425		1925		0.91	1.10				
大学の名称		大阪人間科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
人間科学研究科	2	10	—	20	修士(人間科学)	0.60	0.40		平成18	大阪府摂津市正雀1-4-1	
大学院全体	2	10	—	20		0.60	0.40				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学長)	田中 保和 (68) <令和2年4月> 工学修士	対人援助演習Ⅱ※
専	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (67) <令和2年4月> 医学博士	キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 基礎医学Ⅰ(医学総論・病理学) 基礎医学Ⅱ(解剖学・生理学) 臨床医学Ⅳ(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) 臨床医学Ⅴ(臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学) 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 人間関係Ⅰ
専	教授(学科長)	川井 久和 (55) <令和2年4月> 修士(密教学)	臨床医学Ⅰ(リハビリテーション医学) 臨床医学Ⅱ(臨床神経学) 言語聴覚障害学 言語聴覚障害学演習 嚥下障害Ⅰ 嚥下障害Ⅱ 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
専	教授	加藤 敬徳 (65) <令和2年4月> 学士(医学)	精神医学Ⅰ
専	准教授	安井 美鈴 (57) <令和2年4月> 修士(人間科学)	FA演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 高次脳機能障害学Ⅰ 高次脳機能障害学Ⅱ 高次脳機能障害学演習 発声発語障害学Ⅰ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学Ⅱ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) ※ 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
専	助教	青木 弥穂 (43) <令和2年4月> 学士(理学)	FA演習 対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学演習(含む聴力検査法) 補聴器・人工内耳 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学長)	田中 保和 (69) <令和2年4月> 工学修士	対人援助演習Ⅱ※
専	教授(副学長)(学部長)	山岸 正和 (68) <令和2年4月> 医学博士	キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 人間関係Ⅰ 内科学 臨床医学Ⅲ(小児科学)
専	教授(学科長)	川井 久和 (56) <令和2年4月> 修士(密教学)	臨床医学Ⅰ(リハビリテーション医学) 臨床医学Ⅱ(臨床神経学) 言語聴覚障害学 言語聴覚障害学演習 嚥下障害Ⅰ 嚥下障害Ⅱ 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
専	教授	加藤 敬徳 (66) <令和2年4月> 学士(医学)	精神医学Ⅰ
専	准教授	安井 美鈴 (58) <令和2年4月> 修士(人間科学)	FA演習 ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 高次脳機能障害学Ⅰ 高次脳機能障害学Ⅱ 高次脳機能障害学演習 発声発語障害学Ⅰ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学Ⅱ(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) 発声発語障害学演習(運動障害性構音障害・音声障害・吃音) ※ 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
専	助教	青木 弥穂 (44) <令和2年4月> 学士(理学)	FA演習 対人援助演習Ⅱ※ ブレ演習Ⅰ ブレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ 聴覚障害学演習(含む聴力検査法) 補聴器・人工内耳 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	岡 孝夫 (45) <令和2年4月> 心理学士	専	助教	岡 孝夫 (46) <令和2年4月> 心理学士
		FA演習 対人援助演習Ⅱ※ プレ演習Ⅰ プレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 言語聴覚障害診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 発声発語障害学演習(運動障害 性構音障害・音声障害・吃音) ※ 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ			FA演習 対人援助演習Ⅱ※ プレ演習Ⅰ プレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 言語聴覚障害診断学 失語症Ⅰ 失語症Ⅱ 発声発語障害学演習(運動障害 性構音障害・音声障害・吃音) ※ 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
専	助教	宮地 ゆうじ (33) <令和2年4月> 修士(教育学)	専	助教	宮地 ゆうじ (34) <令和2年4月> 修士(教育学)
		FA演習 プレ演習Ⅰ プレ演習Ⅱ 言語発達学 言語聴覚障害学演習 言語発達障害学Ⅰ 言語発達障害学Ⅱ 発声発語障害学Ⅲ(器質性構音 障害・機能性構音障害) 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ			FA演習 プレ演習Ⅰ プレ演習Ⅱ 言語聴覚障害学演習 言語発達障害学Ⅰ 言語発達障害学Ⅱ 発声発語障害学Ⅲ(器質性構音 障害・機能性構音障害) 言語聴覚特別演習Ⅰ 言語聴覚特別演習Ⅱ※ 言語聴覚特別演習Ⅲ※ 言語聴覚特別演習Ⅳ※ 言語聴覚学見学実習 言語聴覚学実習Ⅰ 言語聴覚学実習Ⅱ 言語聴覚学演習Ⅰ 言語聴覚学演習Ⅱ
			専	助教	田中 良 (42) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)※
					言語学 音声学 音響学 言語発達学
兼任	教授	久家 義之 (63) <令和2年4月> 学士(医学)	兼任	教授	久家 義之 (64) <令和2年4月> 学士(医学)
		医学知識			医学知識
			兼任	教授	阪本 英二 (56) <令和2年4月> 医学博士
					基礎医学Ⅰ(医学総論・病理学) 基礎医学Ⅱ(解剖学・生理学)
兼任	教授	佐光 健 (47) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)	兼任	教授	佐光 健 (48) <令和2年4月> 修士(社会福祉学)
		社会問題論			社会問題論
兼任	教授	武田 卓也 (44) <令和2年4月> 博士(社会学)	兼任	教授	武田 卓也 (45) <令和2年4月> 博士(社会学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	教授	辻 薫 (60) <令和2年9月> 文学士※	兼任	教授	辻 薫 (61) <令和2年9月> 文学士※
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	教授	鶴野 隆浩 (57) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	鶴野 隆浩 (58) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		対人援助演習Ⅱ※ 社会福祉Ⅰ			対人援助演習Ⅱ※ 社会福祉Ⅰ
兼任	教授	中川 昭夫 (69) <令和2年4月> 博士(保健学)	兼任	教授	中川 昭夫 (70) <令和2年4月> 博士(保健学)
		リハビリテーション工学			リハビリテーション工学
			兼任	教授	羽根 隆 (60) <令和2年4月> 文学士
					オーラル・コミュニケーション(英語)Ⅰ オーラル・コミュニケーション(英語)Ⅱ
兼任	教授	日上 耕司 (59) <令和2年4月> 博士(心理学)	兼任	教授	日上 耕司 (60) <令和2年4月> 博士(心理学)
		特別支援教育原論			特別支援教育原論
兼任	教授	宮崎 佐利 (61) <令和2年4月> 教育学士	兼任	教授	宮崎 佐利 (62) <令和2年4月> 教育学士
		日本語基礎 文章表現法			日本語基礎 文章表現法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	山川 友康 (72) <令和2年4月> 修士(社会学)	兼任	教授	山川 友康 (73) <令和2年4月> 修士(社会学)
		リハビリテーション概論 人間発達学			リハビリテーション概論 人間発達学
兼任	教授	山野 薫 (54) <令和2年4月> 博士(保健医療学)	兼任	教授	山野 薫 (55) <令和2年4月> 博士(保健医療学)
		医療安全管理学			医療安全管理学
兼任	教授	弓岡 光徳 (65) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)	兼任	教授	弓岡 光徳 (66) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		チーム医療論演習			チーム医療論演習
兼任	准教授	東 千冬 (57) <令和2年4月> 文学修士	兼任	准教授	東 千冬 (58) <令和2年4月> 文学修士
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	准教授	城越 幸一 (56) <令和2年4月> 体育学士	兼任	准教授	城越 幸一 (57) <令和2年4月> 体育学士
		対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスポモーション			対人援助演習Ⅱ※ スポーツ実技Ⅰ ヘルスポモーション
兼任	准教授	秦 康宏 (55) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	准教授	秦 康宏 (56) <令和2年4月> 修士(学術)
		多文化共生			多文化共生
兼任	准教授	梶田 浩三 (48) <令和2年4月> 医科学修士			
		対人援助演習Ⅱ※			
			兼任	講師	中山 奈々美 (37) <令和2年4月> 医学博士
		対人援助演習Ⅱ※			
兼任	准教授	丸山 亜実 (48) <令和2年4月> 社会学士	兼任	准教授	丸山 亜実 (49) <令和2年4月> 社会学士
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	奥村 裕 (45) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	奥村 裕 (46) <令和2年4月> 修士(保健学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	講師	金澤 佑治 (33) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	金澤 佑治 (34) <令和2年4月> 博士(医学)
		医療英語			医療英語
兼任	講師	木下 亮平 (33) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	木下 亮平 (34) <令和2年4月> 修士(保健学)
		対人援助演習Ⅱ※ 地域リハビリテーション学			対人援助演習Ⅱ※ 地域リハビリテーション学
兼任	助教	筒井 優介 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学)	兼任	助教	筒井 優介 (41) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	弓岡 まみ (32) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)	兼任	助教	弓岡 まみ (33) <令和2年4月> 修士(健康福祉学)
		対人援助演習Ⅱ※			対人援助演習Ⅱ※
兼任	助教	釣井 達也 (34) <令和2年4月> 博士(理学)			
		対人援助演習Ⅱ※			
			兼任	講師	中村 かおり (48) <令和2年4月> 修士(臨床教育学)
		対人援助演習Ⅱ※			
兼任	講師	赤田 知華子 (39) <令和2年4月> 修士(人間科学)	兼任	講師	赤田 知華子 (40) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習Ⅰ ジェンダー論			対人援助演習Ⅰ ジェンダー論 人権と倫理
兼任	講師	穂久 宗徳 (48) <令和2年4月> 学士(農学)	兼任	講師	穂久 宗徳 (49) <令和2年4月> 学士(農学)
		対人援助演習Ⅰ			対人援助演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 僚祐 (27) <令和2年4月> 修士(理学)
		生物学
兼任	講師	上田 智巳 <令和2年4月> (44) <令和2年4月> 修士(文学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	植田 瑞穂 (29) <令和2年4月> 心理学修士
		対人援助演習 I
兼任	講師	遠藤 たまえ (58) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	奥村 命子 (54) <令和2年4月> 社会学士
		ソーシャルマナー I ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (57) <令和2年4月> 修士(学術)
		スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (61) <令和2年4月> 文学士
		視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (29) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (51) <令和2年4月> 高等学校卒
		スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (45) <令和2年4月> 修士(社会学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	佐藤 泰子 (59) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)
		医療倫理
兼任	講師	島村 敏生 (65) <令和2年4月> 文学士
		オラクル・クワット(英語) I オラクル・クワット(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II
兼任	講師	白井 三千代 (60) <令和2年4月> 修士(国文学) ・修士(社会学)
		対人援助演習 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 僚祐 (28) <令和2年4月> 修士(理学)
		生物学
兼任	講師	上田 智巳 <令和2年4月> (45) <令和2年4月> 修士(文学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	植田 瑞穂 (30) <令和2年4月> 心理学修士
		対人援助演習 I
兼任	講師	遠藤 たまえ (59) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	奥村 命子 (55) <令和2年4月> 社会学士
		ソーシャルマナー I ソーシャルマナー II
兼任	講師	木内 真弘 (58) <令和2年4月> 修士(学術)
		スポーツ実技 I
兼任	講師	木谷 織信 (67) <令和2年4月> 体育学士
		スポーツ実技 I
兼任	講師	木戸口 恭子 (62) <令和2年4月> 文学士
		視覚障害者への理解と点字
兼任	講師	金 波 (30) <令和2年4月> 修士(人間科学)
		心理学入門
兼任	講師	藏内 茂 (52) <令和2年4月> 高等学校卒
		スポーツ実技 II
兼任	講師	鴻上 圭太 (46) <令和2年4月> 修士(社会学)
		対人援助演習 I
兼任	講師	斎藤 佳子 (29) <令和2年4月> 修士(文学)
		日本語基礎 文章表現法
兼任	講師	佐藤 泰子 (60) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)
		医療倫理
兼任	講師	島村 敏生 (66) <令和2年4月> 文学士
		オラクル・クワット(英語) I オラクル・クワット(英語) II コミュニケーション(英語) I コミュニケーション(英語) II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	講師	高木 恭子 (47) <令和3年4月> 修士(工学)	高木 恭子 (48) <令和3年4月> 修士(工学)
		人間工学	人間工学
兼任	講師	添田 喜治 (44) <令和3年4月> 博士(学術)	添田 喜治 (45) <令和3年4月> 博士(学術)
		聴覚心理学	聴覚心理学
			高瀬 俊幸 (70) <令和2年4月> 歯学博士
			臨床医学Ⅳ(耳鼻咽喉科学・聴覚医学) 臨床医学Ⅴ(臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学)
兼任	講師	田中 良 (41) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)※	
		言語学 音声学 音響学	
兼任	講師	堤 聖月 (27) <令和3年4月> 修士(心理学)	堤 聖月 (28) <令和3年4月> 修士(心理学)
		発達心理学	発達心理学
兼任	講師	水流 寛二 (52) <令和2年4月> 体育学士	水流 寛二 (53) <令和2年4月> 体育学士
		対人援助演習Ⅰ	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	田 麗 (60) <令和2年4月> 博士(医学)	
		内科学 臨床医学Ⅲ(小児科学)	
兼任	講師	豊島(山本) 彩 (30) <令和3年4月> 博士(人間科学)	豊島(山本) 彩 (31) <令和3年4月> 博士(人間科学)
		高齢者の心理	高齢者の心理
兼任	講師	中路 曜子 (33) <令和3年4月> 修士(心理学)	中路 曜子 (34) <令和3年4月> 修士(心理学)
		障害者の心理	障害者の心理
兼任	講師	中西(荒木) 美穂 (50) <令和2年4月> 修士(文学)	中西(荒木) 美穂 (51) <令和2年4月> 修士(文学)
		対人援助演習Ⅰ	対人援助演習Ⅰ
兼任	講師	中村 泰剛 (48) <令和2年4月> 専門学校卒	中村 泰剛 (49) <令和2年4月> 専門学校卒
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	西沢 敏美 (64) <令和2年4月> 法学士	西沢 敏美 (65) <令和2年4月> 法学士
		キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ
兼任	講師	林 可奈子 (36) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)	林 可奈子 (37) <令和2年4月> 修士(言語教育情報学)
		オーラルコミュニケーション(英語)Ⅰ オーラルコミュニケーション(英語)Ⅱ コミュニケーション(英語)Ⅰ コミュニケーション(英語)Ⅱ	オーラルコミュニケーション(英語)Ⅰ オーラルコミュニケーション(英語)Ⅱ コミュニケーション(英語)Ⅰ コミュニケーション(英語)Ⅱ
兼任	講師	平井 崇晴 (54) <令和2年4月> 理学博士	
		数学の原理 社会人基礎学力(数学)	
			後藤田 洋介 (27) <令和2年4月> 修士(教育学)
			数学の原理 社会人基礎学力(数学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	平柳 行雄 (68) <令和2年4月> 商学士・Master of Arts (米国)	兼任	講師	平柳 行雄 (69) <令和2年4月> 商学士・Master of Arts (米国)
		オーストラリアン (英語) I オーストラリアン (英語) II			オーストラリアン (英語) I オーストラリアン (英語) II
兼任	講師	藤井 涉 (40) <令和2年4月> 修士 (社会福祉学)			
		人権と倫理			
兼任	講師	藤村 邦博 (68) <令和2年4月> 文学修士	兼任	講師	藤村 邦博 (69) <令和2年4月> 文学修士
		教育心理学			教育心理学 心理学入門
兼任	講師	細谷 周史 (44) <令和3年4月> 修士 (心理学)	兼任	講師	細谷 周史 (45) <令和3年4月> 修士 (心理学)
		生活と統計			生活と統計
兼任	講師	石原 昂侑 (30) <令和2年4月> 学士 (社会福祉学)	兼任	講師	石原 昂侑 (31) <令和2年4月> 学士 (社会福祉学)
		対人援助演習 I			対人援助演習 I
兼任	講師	藤本 恵子 (55) <令和2年4月> 修士 (学術)	兼任	講師	藤本 恵子 (56) <令和2年4月> 修士 (学術)
		オーストラリアン (英語) I オーストラリアン (英語) II			オーストラリアン (英語) I オーストラリアン (英語) II
兼任	講師	山口 信子 (58) <令和2年4月> 高等学校卒	兼任	講師	山口 信子 (59) <令和2年4月> 高等学校卒
		聴覚障害者への理解と手話			聴覚障害者への理解と手話
兼任	講師	柴田 (吉崎) 和子 (50) <令和2年4月> 社会学修士	兼任	講師	柴田 (吉崎) 和子 (51) <令和2年4月> 社会学修士
		社会学 社会調査論			社会学 社会調査論
兼任	講師	吉田 育弘 (51) <令和2年4月> 経済学士	兼任	講師	吉田 育弘 (52) <令和2年4月> 経済学士
		簿記会計			簿記会計
兼任	講師	吉田 美智子 (62) <令和2年4月> 体育学士	兼任	講師	吉田 美智子 (63) <令和2年4月> 体育学士
		スポーツ実技 I スポーツ実技 II			スポーツ実技 I スポーツ実技 II
兼任	講師	石川 眞理子 (64) <令和4年4月> 修士 (人間科学)	兼任	講師	石川 眞理子 (65) <令和4年4月> 修士 (人間科学)
		臨床心理学			臨床心理学
兼任	講師	廣瀬 翔平 (31) <令和3年4月> 修士 (文学)	兼任	講師	廣瀬 翔平 (32) <令和3年4月> 修士 (文学)
		学習心理学 心理測定法			学習心理学 心理測定法

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「内科学」「臨床医学Ⅲ（小児科学）」の「田麗兼任講師」を「山岸正和教授」に変更。
- ・「基礎医学Ⅰ（医学総論・病理学）」「基礎医学Ⅱ（解剖学・生理学）」を「山岸正和教授」から「阪本英二兼任教授」に変更
- ・「臨床医学Ⅳ（耳鼻咽喉科学・聴覚医学）」「臨床医学Ⅴ（臨床歯科学・口腔外科学・形成外科学）」を「山岸正和教授」から「高瀬俊幸兼任講師」に変更
- ・専任「田中良助教」就任、兼任講師から変更（「言語学」「音声学」「音響学」担当）。
- ・「言語発達学」の「宮地ゆうじ助教」を「田中良助教」に変更。
- ・「オールワークショップ（英語）Ⅰ」「オールワークショップ（英語）Ⅱ」の担当教員に「羽根隆兼任教授」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅱ」の「榎田浩三兼任准教授」を「中山奈々美兼任講師」に、「釣井達也兼任助教」を「中村かおり兼任講師」に変更。
- ・「人権と倫理」の「藤井渉兼任講師」を「赤田知華子兼任講師」に変更。
- ・「スポーツ実技Ⅰ」の担当教員に「木谷織信兼任講師」を追加。
- ・「日本語基礎」「文章表現法」の担当教員に「斎藤佳子兼任講師」を追加。
- ・「対人援助演習Ⅰ」の担当教員から「白井三千代兼任講師」を退職により削除。
- ・「数学の原理」「社会人基礎学力（数学）」の「平井崇晴兼任講師」を「後藤田洋介兼任講師」に変更。
- ・「心理学入門」の担当教員に「藤村邦博兼任講師」を追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
4	1	0	3	8	0	4	1	0	4	9	0
(4)	(1)	(0)	(3)	(8)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
4	1	0	4	9	0	4	1	0	4	9	0
[0]	[0]	[0]	[1]	[1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{9}{8} = \boxed{112.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{9} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
届 出 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。 遵守事項	本学部の教育研究の水準を維持向上させるために、教員組織編成の将来構想を明確にした。また、今後の採用計画の方針についても策定した。	履行中 本学部の専任教員の内、本学の定める「教育職員の定年（65歳）」を超えるものが完成年度において9名となる。この9名の教授する科目分野を中心とした若手教員の採用について積極的に行う予定である。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 言語聴覚学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では開学以来「FD委員会」を設置し、FD活動を推進してきた。委員長は教学部長であり、各学科の代表委員と幹部事務職員でその活動を行っている。なお、平成29年度からはSDの義務化に対応するために「FD委員会」と「SD委員会」を統合し、「FD・SD委員会」として活動を行っている。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

「FD・SD委員会」は毎月1回の定例委員会を開催している。参加メンバーは、教学部長を委員長とし、各学科から教員が1名ずつ委員となっている。定例委員会の教員の参加率は100%に近い。また、年に1回以上は委員会主催の「FD・SD研修会」を全教職員対象に実施している。令和元年度は令和2年3月5日に「学生の理解を深める工夫について」というテーマで「授業改善に役立つ動画教材の紹介」と「アクティブ・ラーニング はじめの一歩」などの講演を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から集合形式の研修会は中止とした。なお、それに代わる研修会として、関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材「シリーズ 大学の授業を極める(1)講義法」を各自が視聴するという形式で実施した。

c 委員会の審議事項等

令和元年度の「FD・SD委員会」は、①「学生による授業評価」の実施について、②FD・SD研修会について、③新任教員オリエンテーションの開催について、④ピアレビュー・グループ活動について、⑤学外の各種FD研修会や他大学の取り組み研究などについて、実施の準備から実施結果の反省まで討議・審議を行った。

② 実施状況

a 実施内容

- ・新任教員オリエンテーション研修会(4月)
- ・FD・SD研修会(3月)
- ・学生による授業評価(7月、1月)
- ・教員相互による授業参観月間の実施(7月～12月)

b 実施方法

・「新任教員オリエンテーション研修会」は、平成26年度以降毎年4月に実施し、新任教員が参加している。
 ・「FD・SD研修会」は、令和元年度は令和2年3月5日に「学生の理解を深める工夫について」というテーマで実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から集合形式の研修会は中止とした。なお、それに代わる研修会として、関西地区FD連絡協議会が作成した動画教材「シリーズ 大学の授業を極める(1)講義法」を各自が視聴するという形式で実施した。
 ・「学生による授業評価」は、前期と後期にほぼすべての科目について「アンケート用紙への自記式」により実施し、その結果は学生と教員に公開している。
 ・「教員相互による授業参観」は、学科を超えたペアリングで実施し、教員同士のピア・レビュー活動として定着している。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・「新任教員オリエンテーション研修会」は、平成31年度は4名全員が、令和2年度は10名全員が参加した。
- ・「FD・SD研修会」は集合形式の研修会は中止としたが、62名の教員が「動画教材」の視聴研修を受講した。
- ・「学生による授業評価」では、非常勤も含め9割以上の教員が実施した。
- ・「教員相互の授業参観」では、ほぼ全ての専任教員において実施された。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

年2回実施している学生による授業評価は定着している。学生にフィードバックするとともに、教員自身の自分の授業を見つめてもらう目的で、リフレクションペーパーを提出してもらっている。
また令和元年度も教員同士の「ピアレビュー・グループ活動（教員相互の授業参観）」について取り組み、令和元年7月～12月にかけてほぼ全ての専任教員において実施され、事後の報告書も全教員から提出された。
さらに、平成25年度から積極運用を開始した「学修ポートフォリオ」の活用についてもその活用状況調査を実施し、全学本格運用に向けて取り組みを推進中である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生による授業評価は、平成16年度より、毎年度2回（前期と後期）に実施している。その結果は、当該教員にフィードバックされ、授業改善に役立てることとしている。平成17年度より、専任教員には義務化された。また、非常勤の教員が担当する授業の学生による授業評価の実施は、当該教員の意志に任されていたが、平成22年度より自己点検・評価委員会より積極的実施を依頼し、9割以上の非常勤教員の授業において実施されている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果の利用については、平成16年から19年までは当該教員にのみ返却されていたが、平成20年度より、学部長、各学科長が閲覧することとした。平成24年度以降は毎年、学内SNSであるユニバーサルパスポート上で学生及び教職員にも公開している。また、平成30年度後期からはユニバーサルパスポート上での公開に加えて、大学ホームページでも全体の集計結果を公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「共生社会」の実現を目指す本学の教育において、保健医療学部は「人間の日常生活の保障」を目指すべき理念とする。

保健医療学部では、学士課程において理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成教育を実施し、国家資格取得を目指すとともに、対人援助の職に就くために必須となる倫理観からコミュニケーション能力まで包含した全人教育を実施する。

保健医療の知識や、高齢者、障がい児・者への理解をベースに、人間のからだのしくみをはじめ、地域社会におけるリハビリテーションの在り方に至る学びを通し、小児から高齢者まで、幅広い層の対人援助に対応できる実践能力を備えた人間味豊かな理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の育成を目指すと共に、保健医療、福祉領域の発展に貢献していくことを教育研究上の目的とする。

令和2年度に教育活動を開始した本学部においては、その目的達成の緒に就いたところである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 令和3年10月公表予定

b 公表方法

- ・ 大学ホームページで公開予定 (<http://www.ohs.ac.jp/>)

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成29年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）による大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準に適合しているとの認定」を得た。次回は令和6年度を計画している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。